

作物統計調査
審査メモで示された論点に対する回答

農林水産省大臣官房統計部
生産流通消費統計課

今回申請された変更内容

1 行政記録情報等の活用による調査の効率化 (変更内容)

① - 1 水稻の作付面積に係る実測調査（全国で約 10,000 単位区）の取りやめ

(論点)

1 要領データは、誰から誰にどのようなデータが情報提供されるのか。
また、要領データは本調査で必要なデータを網羅しているのか。

(回答)

要領データは、各地域の市町村や農業関係機関等（農業協同組合等生産出荷団体、農業共済組合、農業委員会等）で組織する地域農業再生協議会が該当地域の水稻作付を把握し、地方農政局等へ報告されたものです。

具体的には農林業経営体の水稻の作付面積にかかる営農計画書等の提出データに加え、未提出者分についても地域の農業関係機関のネットワーク等を活かして、大規模生産者を中心に可能な限り悉皆的に把握を行っています。

これにより、当該地域の水稲作付については、ほぼ網羅的に把握されることとなりますが、全体に占める割合はわずかながら、学校、試験場等の非営利団体等や自給分については、把握されていない場合がありますので、その場合は全体量を捉えるためにも、農林水産省で学校、試験場への聞き取り、未申請者が多くかつ自給用が多いと思われる地域の簡易な巡回・見積り等で補完が必要となります。

(論点)

2 情報の把握方法が全く異なる要領データと作付面積調査（サンプルとして抽出した区域からえた結果を復元）が、ほぼ同一というのは逆に不自然にも見えるが、なぜ、結果が近似するのか。

(回答)

情報の把握方法の違いはありますが、把握対象とその範囲が一致していることから、過去から現行の調査結果の検証や取りまとめを行う際に参考としてきており、結果が極めて近似していることはこれまでも確認できていました。

なお、学校、試験場等については、要領データでは把握していないため、これ以外の部分について今回全面的に要領データを活用することとしました。

2 水稲以外の作物に関する調査の変更

(変更内容)

- ② - 1 水稲以外の作付面積調査について、農林業経営体を調査対象に追加（収穫量調査については、既に調査対象になっており、今回の変更により、両調査を一体的に実施）

(論点)

- 1 現在の作付面積調査について、関係団体等のみの全数調査により行っている理由は何か。一方で、収穫量調査について、関係団体等と農林業経営体の両方に対して調査を実施している理由は何か（今回の変更で、両方に回答を求めることで、同じ内容について重複調査になる場合があるのではないか。）。

(回答)

- 1 過去においては多くの作物で関係団体等への出荷が主となっていたことから、これを調査することで全体のうち大部分を把握することが可能でした。このため、関係団体等のみを調査対象としてきました。

その後、直接販売等の関係団体等以外に出荷する形態が増加してきたものの、関係団体等が地域の状況を把握しており、ここに調査を行うことで農林業経営体を調査しなくとも、職員が巡回・見積り、情報収集により調査の補完を行うことで、全体量の把握が可能でした。

- 2 収穫量調査において、関係団体等と農林業経営体の両方に回答を求めていることについては、

- ・関係団体等 → 農協等に出荷されるものについての収穫状況の把握
 - ・農林業経営体 → 農協等を経由しない直接販売等についての収穫状況の把握
- という大きな役割分担があります。

- 3 収穫量は、作付面積に当年産の10アール当たり収量を乗じて算出（作付面積×10アール当たり収量＝収穫量）しますが、その総量を的確に把握するため、当該地域における該当作物のその年の作柄を表す平均的な収量を把握する必要があります。

一般的に農業協同組合等の関係団体等に出荷されるものは慣行栽培（各地域で農家の多くが実践する農作物の栽培方法であり、農薬と肥料の使用回数などにおいて、多くの生産者が行っている農法）のものが多く、直接販売や契約栽培されているものは有機等の付加価値を付けたもの、量より品質を重視したもの、加工用、植物工場等の多収となるもの等があり、10アール当たり収量は農林業経営体によって様々であるため、平均的な収量を把握する必要があります。

このことから、地域の平均的な収量を把握するために農業協同組合等の団体だけでなく、農林業経営体も調査対象として調査も行っています。

4 このような役割分担を踏まえ、調査に当たっては、

- ① 経営体調査の母集団からは、農林業センサス結果において関係団体等にしか出荷していない農林業経営体は除く
- ② 収穫の一部を関係団体等に出荷している農林業経営体は、対象になり得ますが、調査事項として設けている出荷先割合を利用することで、直接出荷分を計算するという対応により、推計過程において、関係団体等の回答と農林業経営体の回答が重複計上されることがないように配慮しています。
- ③ また、今回新たに追加する農林業経営体への作付面積調査においても、関係団体等の回答と農林業経営体との回答が重複計上されることがないように配慮することとします。

(論点)

2 現在の作付面積調査について、関係団体等の回答による把握状況（把握できている範囲（比率）など）を示していただきたい。

併せて、関係団体等のデータを補完するために行われている巡回等について、実施内容・実施規模を示していただきたい。

(回答)

1 団体調査結果で把握できる範囲（比率）については、別紙1のとおりです。作目によって団体集荷割合の異なる理由については、各地域の農業協同組合の集荷状況（ブランド販売するならある程度の集荷量が必要となってくるなど）、各農林業経営体の販売戦略等によって、状況が異なるためです。

また、巡回・見積りの代表的な事例のイメージについては、別紙2のとおりです。

2 巡回・見積りについては、調査対象作物の作付面積について、総量を的確に把握する必要があることから、調査（団体調査）結果だけでは把握できない部分について、職員や統計調査員を活用し実施してきた方法です。

巡回・見積りを行う箇所については、過去からの経験則に基づき、該当作物の主要な作付地帯を効率的に確認できる巡回コースを事前に設定しており、基本的には毎年同じ巡回コースで巡回・見積りを行うことで、当年産の作付面積の見積りや前年産との比較による増減等からも全体量の把握を行います。作付が少なくなり主要な作付地帯とは言えなくなった場合や関係者等からの情報により新たに主要な作付地帯が出現した場合は、随時、巡回コースの見直しを行っています。

このうち、統計調査員は巡回コース上で居住地に近い作付地帯を中心に巡回・見積りによる現地確認を行います。

3 統計調査員は、1地点4ha（耕地面積調査で使用している単位区（200m 四方（北海道にあっては400m 四方）の格子状の区画））における作物の作付状況を確認しています。直近5年間で実施した実施の規模は表1のとおりであり、統計調査員による巡回・見積りのウエイトが増加しています。

一方、職員が行う巡回・見積りの実施は減少しており、役割としては、情報収集を主に担っており、主要な作付地帯における大規模経営体や市町村等の農業関係機関に作付動向や作柄概況の聞き取りを行っています。

なお、地域ごと、品目ごとに作付面積・収穫量のウエイトが異なること、作付地帯までの移動距離も異なるため、一度に複数の品目を巡回・見積りで把握できる場合もあれば、一つの品目に数回の巡回・見積りが必要な場合もあり、一概には言えないものの、例えば県庁所在地（地方農政局等の所在地）から作付地帯まで往復2時間、現地での確認に1時間を要する地域においては、3時間×品目数の業務量が発生することになります。

表1 巡回等の実施規模

調査年		R元	R2	R3	R4	R5
巡回等延べ面積 (別紙1の全作物計)		805,509	800,166	725,744	729,914	773,091
職員	延べ地点数	117,529	105,834	55,304	20,459	31,253
	延べ面積(ha)	470,117	423,334	221,216	81,834	125,011
調査員	延べ地点数	83,848	94,208	126,132	162,020	162,020
	延べ面積(ha)	335,392	376,832	504,528	648,080	648,080

これまでは、団体調査結果を踏まえ、網羅的に職員及び統計調査員が巡回・見積り・情報収集を実施してきましたが、統計調査員の管理業務等に非常に労力を要しており、これまでと同様の対応を継続することが困難となったため、将来的に調査が継続できるように今回、関係団体等に出荷していない農林業経営体に対し郵送・オンライン調査を実施することにより関係団体等以外に出荷されている部分を効率的かつ正確に把握する手法に見直したいと考えています（統計調査員の数は、令和5年産調査実績で約550人で、見直し後に増加する予定はありません。）。

また、今般計画している農林業経営体を調査対象に追加することにより、この巡回・見積りについては（数字として示すのは難しいものの）相当程度削減できると見込んでいます。

(変更内容)

② - 3 前記② - 1に伴い、農林業経営体の標本設計を見直し

(論点)

1 - 1 現在の収穫量調査について、関係団体等に対する調査結果と農林業経営体に対する調査結果を、どのような手順で、単収の推計に反映しているのか。

(回答)

現在の調査では、次の図1のとおり10アール当たり収量を算出しています。

図1 現在の調査における10アール当たり収量の算出イメージ

当該県の 作付面積	関係団体等調査 による作付面積 (A)	+	関係団体等を経由せずに出荷する 農林業経営体分の作付面積 (巡回・ 見積り等で把握) (B)
県別の 収穫量	「①関係団体等に対する調査から 得られた県別収穫量」 関係団体等調査 による集荷量 + A × 農林業経営体調査による 10アール当たり自家消費量	+	「②団体調査では把握できない範囲 の県別収穫量」 B × 関係団体等を経由せずに出荷する農林業経営体の 10アール当たり出荷量 + B × 農林業経営体調査による 10アール当たり自家消費量

10アール当たり収量=県別の収穫量／当該県の作付面積

詳細については、次のとおりです。

1 作物の10アール当たり収量(単収)は、大要、次の計算式により算定します。

$$\begin{aligned} & (\text{県別収穫量}) \div (\text{当該県の作付面積}) \\ & = (「①関係団体等に対する調査から得られた県別収穫量」 + 「②団体調査では把握
できない範囲の県別収穫量」) \div (\text{当該県の作付面積}) \end{aligned}$$

①及び②それぞれの算定の流れは、後記2及び3のとおりです。

2 「①関係団体等に対する調査から得られた県別収穫量」について

(1) 関係団体等に対する収穫量調査において把握しているのは、収穫量全体のうち、関係団体等が集荷した量(農林業経営体が関係団体等に出荷した量)の範囲であり、自家消費分は含まれません。

(2) そこで、団体に出荷するか否かに関係なく、経営体における「10 アール当たりの自家消費量」は同等であると仮定して、

「団体に対する作付面積調査から得られた作付面積」×「経営体に対する収穫量調査で得られた 10 アール当たりの自家消費量」

により、「団体調査で把握した作付面積に対しての自家消費量」を推計し、

「団体調査から得られた集荷量」＋「団体調査で把握した作付面積に対しての自家消費量」

により、「①関係団体等に対する調査から得られた面積に対する県別収穫量」を計算する。

3 「②団体調査では把握できない範囲の県別収穫量」について

(1) 現状においては、農林業経営体に対して作付面積調査は行っていません。

そのため、直接出荷など、関係団体等を経由せずに出荷する農林業経営体の作付面積については、巡回・見積り、情報収集等により、把握しています。

(2) 一方、収穫量調査については、農林業経営体に対して調査を行っています。それにより

i) 直接出荷など、関係団体等を経由しない場合の 10 アール当たり出荷量

ii) 関係団体等を経由しない農林業経営体の 10 アール当たり自家消費量が把握できます。

i 及び ii の合計値に、(1) の方法により把握した作付面積を乗じることで、「②団体調査では把握できない範囲の県別収穫量」を計算しております。

(参考：調査票抜粋)

作物名	作付面積 (借入地を含む。)		収穫量							
			出荷量 (販売した量及び販売 目的で保管している量)				自家用、 無償の贈与、 種子用等の量			
	(町)	(反)	(畝)							
	ha	a	t	kg	t	kg	t	kg	t	kg

(論点)

1-2 変更後における作付面積調査について、関係団体等に対する調査結果と農林業経営体に対する調査の結果を、どのような手順で、作付面積の推計に反映するのか。

(回答)

作付面積調査については、図2のとおり「関係団体等に対する調査結果」の積上値と、「農林業経営体への郵送・オンライン調査結果」で把握した関係団体等以外の作付面積（大規模階層の経営体については積上値、中・小規模階層の経営体については推計値）を合計することにより算出します。中小規模階層の推計に当たっては、関係団体等に対する調査結果との重複を避けるため、関係団体等以外への出荷割合を乗じます。

具体的には、

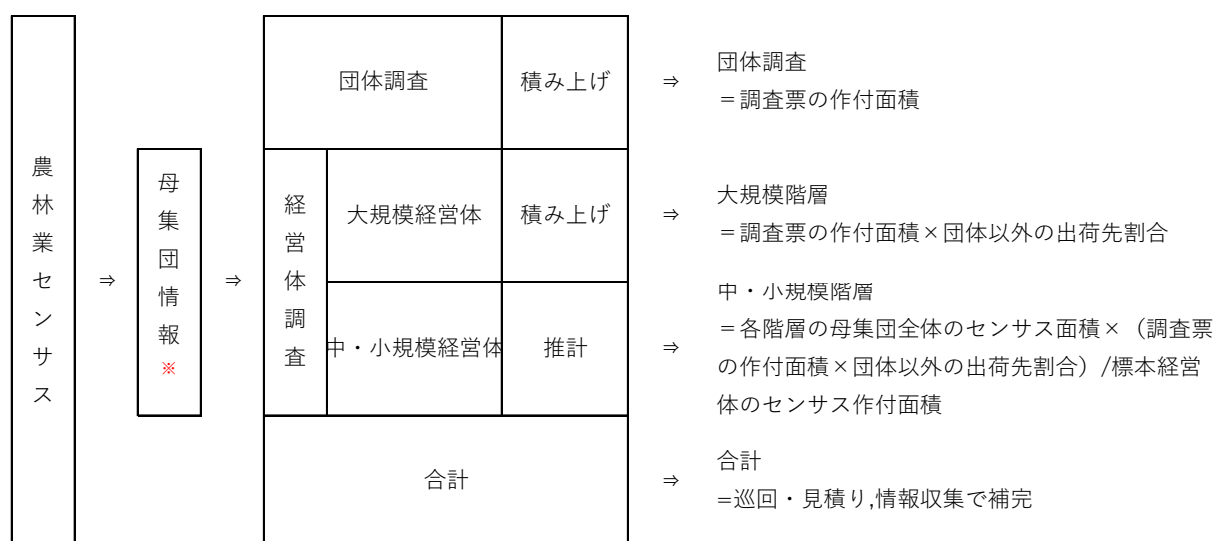
◆ 中小の規模階層ごとに、調査票から得られる①報告者の作付面積×②関係団体等出荷以外の比率により、③農林業経営体における直接出荷の面積を算定

◆ ③を全体に膨らますため、

③×センサスにおける中（小）規模の総作付面積／中（小）規模の農林業経営体の総作付面積

中小規模階層の推計に当たっては、関係団体等に対する調査結果との重複を避けるため、関係団体等以外への出荷割合を乗じることにより算出しています。

図2 作付面積調査の推計イメージ



※関係団体等のみに出荷した農林業経営体を除外

(参考：調査票抜粋)

【 4 】 出荷先の割合について

作物名	加工業者	直売所・消費者へ直接販売	市場	農協以外の集出荷団体	農協	その他	合計
	%	%	%	%	%	%	100%

(論点)

2 作物ごとに関係団体等の把握状況が大きく異なるのに(②-1の論点2の回答を参照)、共通の標本設計でよいのか(団体の捕捉率の高い品目については、農林業経営体に対する調査が不要、又は小規模でよいのではないか。)

(回答)

標本設計のイメージについては、別紙3-1の図2のとおり「団体面積割合+大中規模階層面積割合=8割」となるよう設計しています。

総数を的確に把握する必要があることから、農林業経営体も含めて調査する必要がありますが、御指摘のとおり、関係団体等の割合によって、標本の大きさが変わる設計となっています。

具体的には、別紙3-2の図3のとおり関係団体等の捕捉率の高い品目については、農林業経営体調査の母集団となる農林業経営体数も少なくなります。仮に作付面積や農林業経営体数が同規模の地域があった場合、団体出荷率の高い地域は一般論として関係団体等以外に出荷している農林業経営体が少ないこととなり、そもそも標本候補となり得る農林業経営体数は少なくなります。

さらに、中規模階層については地域の作付面積割合8割までの農林業経営体から大規模階層(団体、大規模経営体)を差し引いた分となりますが、団体出荷率の高い地域は中規模階層に属する経営体数が少なくなります。

このことから、中規模階層を一律1/5抽出とした場合においても、団体出荷率の高い地域から抽出される経営体数は少なくなり、団体出荷率が低い地域は抽出される農林業経営体が多くなるので、一律の設計としても団体出荷率の多少による実情(関係団体等が把握している割合の差)も反映した標本抽出が行えると考えています。

(論点)

3 作付面積調査について、農林業経営体を調査対象に追加することで、なぜ、サンプルサイズは、約 60,000 経営体から約 51,000 経営体に減るのか。また、それにより、精度に支障は生じないのか。

(回答)

サンプルサイズについては、51,000 は 5 年間平均で示しているため、現行の 60,000 より常に少ないように見えますが、現状で想定されているサンプルサイズは、表 2 のとおり全国調査を行う作物があるときには、65,000 程度、そうでないときは、41,000 程度と波があります。

その上で、標本設計を変更したことがサンプルサイズ減少の理由です。

表 2 見直し後のサンプルサイズ（見込み）

	サンプルサイズ（見込み）				
	8 年産	9 年産	10 年産	11 年産	12 年産
農林業経営体	66,567	41,073	41,073	41,073	64,477

具体的には、現行の約 60,000 経営体については、階層分けを行わずに必要な数を確率比例で抽出していますが、今後は大・中・小 3 つの階層分けを行い、大規模階層（団体以外に出荷する作付上位 10 経営体等）については全数調査、中規模階層（団体調査、大規模階層を除き当該地域の作付面積割合 8 割を占めるまでの経営体）については 1 / 5 抽出による標本調査、小規模階層（大・中規模以外）については作物ごとに現行調査の抽出率（現行調査における地域・作物ごとの標本数/地域作物ごとの母集団数）を用いた標本調査で全国調査年のみ実施することとしました。

小規模階層を全国調査年のみとしたことから、農林業経営体の 5 年平均のサンプルサイズは減少しますが、関係団体等及び大規模階層を全数調査することから調査の精度に支障は生じないと考えております。

(論点)

4 現在の標本設計（収穫量調査に関する経営体調査）における目標精度は、どの程度か。

変更後の標本設計（作付面積調査と収穫量調査に関する経営体調査）において想定している目標精度は、どの程度か。

(回答)

作物ごとの重要度及び利活用状況を踏まえ、表3のとおり全国の調査精度(おおむね2～3%)が確保されるよう、全国収穫量に対する累積収穫量シェアに応じて作物別・都道府県別に10アール当たり収量に関する目標精度を設定しています。

表3 現在の標本設計（収穫量調査に関する経営体調査）における目標精度

		麦類、大豆、指定野菜、みかん、りんご	その他作物
全国の調査精度		おおむね2%	おおむね3%
都道府県ごとの目標精度			
I	収穫量（出荷量）の多い順に全国収穫量の80%を占めるまでの都道府県	3%	5%
II	収穫量（出荷量）の多い順に全国収穫量の90%を占めるまでの都道府県で、Iに属するものを除いたもの	5%	10%
III	収穫量（出荷量）の多い順に全国収穫量の99%を占めるまでの都道府県で、I及びIIに属するものを除いたもの	10%	15%
IV	収穫量（出荷量）の多い順に全国収穫量の100%を占めるまでの都道府県でI、II及びIIIに属するものを除いたもの	15%	20%

また、行政利活用上、求められる精度に変更はないため、見直し後の収穫量調査については、現行同様の精度を維持することを考えており、そのために必要な標本数を確保します。

作付面積調査については、今回、巡回・見積りに替えて農林業経営体への郵送・オンライン調査を導入しますが、2度の試行調査で現行調査と遜色ない結果となっているため、今回申請している標本設計により正確な調査が行えており、必要な目標精度は確保できるものと考えております。なお、実績精度については、全国調査結果を含め、経年的な結果を見た上で、将来的には作付面積、10アール当たり収量それぞれの精度計算を行い、必要標本数の精査を行いたいと考えています。

(論点)

5－1 調査票を送った（又は渡した）段階で、①離農が確認された場合、別の経営体を選定するのか。②作付の変更（例：大豆→野菜）が確認された場合、報告者の立場は変更せず、該当する作物の調査票を送り直すのか。

(回答)

再選定や調査票の送り直しは現状行っておらず、変更後においても行う予定はございません。

離農又は作付けの変更によって、作付面積が減少した場合は、当年産の推計値に反映することとなります。

なお、離農又は作付変更された場合、農林業経営体用の調査票の「来年以降の作付予定」に離農したこと又は調査対象作物の作付け予定がないことを回答していただき、当該農林業経営体は来年以降の母集団から外すこととしており、新たな農林業経営体が標本に選定されるので問題ないものと考えています。

(参考：調査票抜粋)

【 2 】 来年以降の作付(栽培)予定について

来年以降の作付(栽培)予定について教えてください。
必ず、該当する項目の点線を1つなぞってください。

来年以降、作付(栽培)予定がある	
来年以降、作付(栽培)予定はない	
今のところ未定	
農業をやめたため、農作物を作付け(栽培)する予定はない	

(論点)

5－2 中規模階層と小規模階層の農林業経営体については、調査の都度半数入れ替えを予定しているとのことであるが、毎年全国調査を行う作物以外のうち、①主産県の小規模、②非主産県の中小規模については、5年に1度の調査になる。これらについては、半数入れ替えではなく、全部選び直しではないのか。

(回答)

御指摘のとおりです。

今後、調査計画について正確な記載になるよう、総務省と相談の上、対応してまいります。

(論点)

6 農林業センサスを基礎とする母集団名簿を毎年、どのような方法で更新していくのか。

名簿の更新に活用するとされている農業構造動態調査には、作物ごとの作付面積の情報は無い。そのため、新規の経営体があったとしても、作物別・作付面積別の母集団名簿に反映することができず、事実上、名簿更新はできないのではないかと。

※ 全国調査の実施タイミングを7年産と8年産にすることについては、後記④において議論

(回答)

農林業センサスの間の母集団名簿の更新については、現状では、本調査で得られた作付中止や農業構造動態調査で得られた農林業経営体の営農中止を把握した場合しか行っておりません。

御指摘のとおり、農業構造動態調査には、作物ごとの作付面積はありませんので、作物ごとの母集団情報の更新には、直接活用できませんが、一方で、過去1年間の販売金額上位3位までの作物の情報が得られます。

そこで、今後は、1億円以上の販売があった農林業経営体が新規に出現した場合、作物別の作付面積等の聞き取りを行った上で、作物別に母集団名簿更新していく方法も考えています。

また、大規模な経営体については、事実上、毎年、同じ経営体に調査協力を求めることとなりますので、影響の大きな経営体の状況については、継続的に確認が可能と考えています。

このような形で、可能な範囲で母集団情報の更新を行い、正確な調査を実施してまいりたいと考えております。

なお、完全には補完できない部分がありますが、農林業経営体数は推計に用いていないため調査に支障はありません。

母集団情報の補完イメージについては、別紙4のとおりです。

なお、センサス間で名簿が古くなることによって、主産県となる地域や数、母集団名簿の構成割合などの程度の変化がみられるのか、令和7年産に見直しを行う野菜及び花きで検証したところ、別紙5-1のとおり、令和元年産と令和6年産の主産県を作物ごとに比較すると対象県にほとんど差異はなく、別紙5-2のとおり、直近と前回の農林業センサス時点の大・中規模階層までのシェアと小規模階層のシェアを比較してもほとんど差異がないことから、全体としての影響は少ないと考えております。

(変更内容)

- ③ 地方農政局等経由で行っていた郵送・オンライン調査を、基本的に民間委託化するとともに、一部に職員調査・調査員調査を導入

(論点)

- 1 調査の段階ごとに、誰（職員、調査員、民間事業者）が、どの範囲で、どのような事務を行うのかについて、現在と変更後の比較を明らかにしていただきたい。

(回答)

別紙6（民間委託の範囲（イメージ））のとおりです。

(論点)

2 現行の調査方法（農政局経由の郵送調査）よりも、試行調査（民間委託による郵送調査）の回収率がおおむね高かった理由は、何か。

(回答)

本体調査とは調査時期、調査規模（地域、作物）等も異なるため、一概に比較はできないものの、試行調査の最大の目的は、作物統計調査において多大な労力を要する巡回・見積りに代えて民間委託による郵送調査を導入することが可能か、調査結果だけでなく回収率等についても確認を行うことでした。

1次試行調査においては、現行のハガキによる督促に加え、大・中規模の経営体については電話による督促も行い、その効果の確認を行ったところです。現行の調査方法よりも試行調査の回収率が高かった理由は、本体調査では行っていない中規模経営体への電話による督促を行った効果があったものと考えております。

なお、本格導入後に必要とされる回収率と確保できる予算との兼ね合いを検討した結果、2次試行調査では現行と同様であるハガキによる督促のみとしたこと、本体調査との重複を避けるため、本来の調査時期とは異なる時期に実施したものであり、本体調査と比べ回収率が下がる結果となった作物も見られましたが、調査結果は現行の結果と遜色ないものであり、回収率は問題ないと考えています。

(論点)

3-1 試行調査においては、農林業経営体の大規模階層についても、民間委託による郵送調査が行われ、相応の結果が出ているにもかかわらず、殊更に、職員・調査員調査に変更し、それを基本にするのは、なぜか。

(回答)

基本的に職員が減少していく中で、統計調査を継続していくために民間事業者を活用したいと考えており、試行調査においても回収率や統計結果については、現行の調査と遜色はなかったものと考えております。

ただし、各種施策の推進に当たっては、調査により得られた結果だけでなく、その変動要因も併せて説明することが必要となります。特に、この作物統計調査においては、その変動要因の解説が重要となっていることから、全体の作柄などを把握している大規模経営体においては、農業に精通している職員や統計調査員により変動要因についての調査を実施していきます。

例えば、作付面積であれば労力事情等の地域ごとの減少要因に合わせた担い手の育成・確保や担い手への経営耕地の集積、作付けの増加傾向がみられる地域への集中的な支援による産地作り等、需要の動向に応じた優良品種の新・改植、適地適作の産地作りに向けた耐性のある作物の導入等、地域ごとの要因に合わせた対応が必要となります。

このことから、現在も農業協同組合等の関係団体等や大規模経営体に対して、調査結果の妥当性を検証するための情報収集と合わせ、当該年の作付動向や作柄概況を把握しているところです。

この要因把握については、調査票の審査以上の専門性が必要であり、作物ごとの特性（生育ステージや気象の与える影響等）や主要な病虫害等について、一定以上の知見がなければ的確な聞き取り等を行うことができず、また正確な要因把握もできません。このようなノウハウを継承していくためにも、引き続き職員で実施していくことを基本とし、職員で対応しきれない部分については、各地方農政局等で研修を行い一定以上の専門的知見を有した統計調査員を活用し実施していきたいと考えております。

また、大規模経営体については、実態として現行も要因把握の情報収集を行っておりますが、今後は調査対象として悉皆的に把握しなければ、調査結果に与える影響も大きく、要因把握についても、当初においては対面によることによってより正確に情報を把握できるものと考えております。

なお、関係団体等については過去から調査をしており郵送・オンラインで回収後、要因把握等の聞き取りを行える関係性を構築していることから、職員や調査員の訪問による聞き取りを行う必要はありません。

更に、大規模階層の農林業経営体についても、特に初年度に今後の調査への協力依頼を行い関係性を構築しながら要因等についてもしっかりと回答いただける場合は、関係団体等と同様に、次年度以降は郵送・オンラインによる調査票の回収に移行することを想定しています。

(論点)

3-2 統計に従事する職員が減少している状況で、将来的に、職員自らが従事し、調査員を指導することが安定的に継続できる見込みはあるのか。職員及び統計調査員が対応する報告者の規模はどの程度なのか。

(回答)

民間事業者、職員及び統計調査員が対応する調査対象数は別紙7のとおりです。

現行の統計調査員による巡回・見積り業務と今後の導入を考えている統計調査員の大規模階層に対する回収等業務についてですが、巡回・見積りの調査箇所数が162,020地点であるのに対し、回収業務が約8,000経営体（大規模階層約16,000件のうち半分を統計調査員が担当すると想定。）と巡回・見積りの方が膨大なほか、巡回・見積りについては、現地までの地図や現地で確認するための地図等の資材も多く、調査自体の準備作業は大幅に軽減されます。

巡回・見積りについては、調査対象作物の作付面積について、総量を的確に把握する必要があることから、調査（団体調査）結果だけでは把握できない部分について、職員や統計調査員を活用し実施してきた方法ですが、当該年の作付状況や生育状況に応じてコース内で優先的に巡回・見積りを行う地域・作物を選定し、その後に統計調査員と連絡、調整を行う必要があります。一方、大規模階層に対する回収等業務については年度当初から対象が決まっていることから統計調査員との連絡、調整が行いやすい面も負担軽減となります。

このように、現行の統計調査員が行っている業務量に比べて、新たな手法では業務量の大幅な軽減が見込まれます。大規模階層に対する調査は初めてとなり、今後も引き続き調査対象となつていただくため、1回目の訪問に際しては、丁寧に説明し、十分な関係性を構築することを通じて、調査票の回収について、郵送・オンライン回収に誘導して行くことによって、将来的には統計調査員で行う対象数も縮減可能と考えており、統計調査員の指導等に伴う管理業務についても、将来に渡り継続可能と考えております。

(変更内容)

- ④ 3年又は6年ごとに全国調査を行っていた作物について、全国調査の周期を5年に統一（全国調査実施年以外は、主産県調査を実施）

(論点)

- 1 作物によっては、作付面積調査の全国調査の周期が3年から5年になるが、作付の状況が容易に変わり得る作物については、主産県調査時の全国値の算定（注）に影響を及ぼすのではないかな。

（注）主産県調査時の全国の作付面積と収穫量の計算イメージは、以下のとおりであり、今回の変更により、下線部分が5年間固定されることになる。

① 作付面積

（主産県の作付面積）＋（非主産県の作付面積）

＝（主産県調査から得られた最新の作付面積）

＋（直近の全国調査における非主産県の作付面積×主産県の最新の変化率）

② 収穫量

（主産県の収穫量）＋（非主産県の収穫量）

＝（主産県調査から得られた最新の作付面積と単収の積）

＋（直近の全国調査における非主産県の作付面積×単収×主産県の最新の変化率）

(回答)

主産県調査時の全国値は、直近の全国調査年の数値を基準年として、算出しております。

表3のとおり、全国調査の周期を3年から5年に延ばしても全国値の算出にほとんど影響はありませんでした。検証の詳細については、別紙8をご参照ください。

表3 全国調査年の周期について

野菜調査	平成28年産	平成29年産	平成30年産	令和元年産	令和2年産	令和3年産	令和4年産
3年周期（現行体系）	全国調査年	主産県調査年	主産県調査年	全国調査年	主産県調査年	主産県調査年	全国調査年
5年周期（新体系）	全国調査年	主産県調査年	主産県調査年	主産県調査年	主産県調査年	全国調査年	主産県調査年

花き調査	令和元年産	令和2年産	令和3年産	令和4年産	令和5年産	令和6年産	令和7年産
3年周期（現行体系）	全国調査年	主産県調査年	主産県調査年	全国調査年	主産県調査年	主産県調査年	全国調査年
5年周期（新体系）	全国調査年	主産県調査年	主産県調査年	主産県調査年	主産県調査年	全国調査年	主産県調査年

(論点)

2-1 5年周期の全国調査の開始年を令和7年産・8年産としている理由は何か。

2-2 母集団情報について、仮に、作物別・作付規模別の更新が行えないとすると、農林業センサスの結果による母集団情報が「新鮮」な段階で、全国調査を実施するのが望ましいと思われる。

直近の2025年農林業センサスによる母集団情報が令和8年産の作物統計調査から利用できるのであれば、全国調査の実施時期について、グループ分けをすることとしても、8年産と9年産で行うのが望ましいのではないかと(7年産については、2020年農林業センサスによる母集団情報によることになり、適切なサンプル選定に支障が生じるのではないかと)。

(回答)

各作物について、現行の全国調査年を基準としており、次回の全国調査年として、作物ごとに整理した結果として令和7年産、8年産の2グループとなっております。

農業生産を振興していく上で、将来的に主産県となり得る産地育成が重要であることから、非主産県の動向も定期的に把握する必要があり、そのため現在は作付面積(3年周期)、収穫量(6年周期)で全国調査を実施しており、すでに政策部局において次回の全国調査年を見据え、生産振興に係る検討を進めていたことから、次の全国調査年の時期は変更しないで欲しいという要望があり、令和7年産が野菜、花き等、令和8年産が果樹等について調査することとなりました。

また、現実的には、労力面での事情が大きく、平成28年度の申請において、全国調査の実施周期については、全体の業務量を考慮し、特定の年に全国調査が集中しないよう作物ごとに設定しております。

具体的には、職員業務として取りまとめを行う都道府県数については約5割の増(令和7年産を例として、野菜47都道府県、花き47都道府県、果樹16都道府県(品目平均)、飼料16都道府県、合計126都道府県が、188都道府県(47都道府県×4作物))となるほか、同じ考えで特定作物統計(一般統計)も考えるとさらに増加することになるため、職員数が減少していく状況を踏まえると取りまとめの際の労力が不足するので、実運用面で現実的な対応を取りたいと考えております。

なお、古い母集団名簿により調査することで適切なサンプル選定に支障を来すとのご懸念がありますが、令和7年産に全国調査を行う野菜、花き等についても、令和7年産では2020年農林業センサスによる母集団となっておりますが、令和8年産から令和11年産は2025年農林業センサスによる母集団であること、母集団名簿を②-3の6で回答したとおりに更新することで、②-3の6で検証したことからも、センサス間で名簿が古くなることによる影響は少なく、適切にサンプル選定を行うことが可能と考えております。

今後は、1億円以上の販売があった農林業経営体が新規に出現した場合、作物別の作付面積等の聞き取りを行った上で、作物別に母集団名簿更新していくなど、可能な範囲

で母集団情報の更新を行い、正確な調査を実施してまいりたいと考えております。なお、完全には補完できない部分がありますが、農林業経営体数は推計に用いていないため、調査に支障はありません。

(変更内容)

⑤ - 2 一部の作物（大豆、かんしょ、そば、さとうきび、果樹）について、公表時期の変更（大豆、果樹については、前記⑤ - 1 に連動）

(論点)

○ 公表時期の変更は、調査結果の利活用、その他統計ニーズの観点からみて支障はないのか。

(回答)

省内利活用部局に対して、公表期日の変更を伴う全ての作物について支障がないことを確認しております。

その際、省内利活用部局が所管している農業共済等の統計データを活用して業務を行っている団体、各種作物を所管している団体等の統計ニーズ等についても把握を行い、特段の支障は確認されませんでした。

なお、他省庁についても、作物統計の利活用リストに掲載されている省庁について確認しており、可能な限り支障がないことを確認しております。

3 耕地面積調査に関する変更

(変更内容)

⑤ - 3 前記⑤ - 2に連動して、耕地面積調査の詳細（確報に相当）の公表時期を変更

(論点)

○ 公表時期の変更は、調査結果の利活用、その他統計ニーズの観点からみて支障はないのか。

(回答)

省内利活用部局に対して、支障がないことを確認しております。

その際、省内利活用部局が所管している農業共済等の統計データを活用して業務を行っている団体、各種作物を所管している団体等の統計ニーズ等についても把握を行い、特段の支障は確認されませんでした。

なお、他省庁についても、作物統計の利活用リストに掲載されている省庁について確認しており、可能な限り支障がないことを確認しております。

令和5年産面積調査における団体調査、巡回・見積り・情報収集結果整理表

	作付面積公表値 (全国計or主産県計) ha (花きはa)	団体調査結果		巡回・見積り ・情報収集結果
			団体シェア	
陸稲	400	5	1%	395
小麦	231,710	222,161	96%	9,549
二条大麦	38,888	37,473	96%	1,419
六条大麦	19,479	18,575	95%	937
はだか麦	5,517	4,771	86%	746
大豆	154,707	136,188	88%	18,519
牧草	705,175	358,623	51%	346,552
青刈りとうもろこし	97,163	57,410	59%	39,753
ソルゴー	11,706	278	2%	11,428
えん麦	35,972	10,766	30%	25,206
そば	67,155	49,096	73%	18,059
かんしょ	32,020	13,860	43%	18,160
なたね	1,727	907	53%	821
茶	30,739	19,002	62%	11,737
指定野菜	260,894	145,060	56%	115,834
特定野菜	119,921	59,623	50%	60,298
みかん	36,738	19,346	53%	17,392
その他かんきつ	20,494	11,050	54%	9,444
りんご	35,338	15,592	44%	19,746
日本なし	9,118	4,712	52%	4,406
西洋なし	1,173	622	53%	551
かき	15,254	6,797	45%	8,457
びわ	698	360	52%	338
もも	8,748	5,987	68%	2,761
すもも	2,240	1,279	57%	961
おうとう	3,830	2,415	63%	1,415
うめ	11,293	6,330	56%	4,963
ぶどう	15,688	9,029	58%	6,659
くり	13,452	4,947	37%	8,520
パインアップル	590	96	16%	494
キウイフルーツ	1,655	995	60%	660
切り花類	1,189,240	707,487	59%	481,753
球根類	19,180	14,182	74%	4,998
鉢ものの類	124,773	21,164	17%	103,609
花壇用苗ものの類	109,310	8,587	8%	100,723
計				773,091

※全国計、主産県計については「x」公表の数値を含んでいない。

(その場合の団体調査結果、巡回・見積り・情報収集結果についても数値を含んでいない。)

<団体シェアの色分けの凡例>

	80%以上
	60%以上80%未満
	40%以上60%未満
	20%以上40%未満
	20%未満

令和4年産面積調査における団体調査、巡回・見積り・情報収集結果整理表

	作付面積公表値 (全国計or主産県計) ha (花きはa)	団体調査結果		巡回・見積り ・情報収集結果
			団体シェア	
陸稲	450	8	2%	442
小麦	227,357	217,650	96%	9,707
二条大麦	38,039	36,772	97%	1,267
六条大麦	19,230	18,366	96%	864
はだか麦	5,865	5,143	88%	722
大豆	151,635	136,298	90%	15,337
牧草	642,300	379,726	59%	262,574
青刈りとうもろこし	85,653	55,902	65%	29,751
ソルゴー	9,870	147	1%	9,723
えん麦	44,041	11,213	25%	32,828
そば	65,583	47,180	72%	18,403
かんしょ	26,095	9,053	35%	17,042
なたね	1,719	991	58%	728
茶	30,777	18,376	60%	12,401
指定野菜	293,427	149,303	51%	144,124
特定野菜	143,077	64,566	45%	78,511
みかん	37,504	19,700	53%	17,804
その他かんきつ	20,833	11,831	57%	9,002
りんご	35,847	15,889	44%	19,958
日本なし	9,371	4,842	52%	4,529
西洋なし	1,206	709	59%	497
かき	15,606	7,055	45%	8,551
びわ	751	380	51%	371
もも	8,778	6,243	71%	2,535
すもも	2,294	1,267	55%	1,027
おうとう	3,923	2,533	65%	1,390
うめ	11,575	6,524	56%	5,051
ぶどう	15,739	9,159	58%	6,580
くり	13,927	5,046	36%	8,881
パインアップル	596	95	16%	501
キウイフルーツ	1,663	1,007	61%	656
切り花類	1,297,000	729,317	56%	567,683
球根類	23,400	14,866	64%	8,534
鉢ものの類	145,200	22,172	15%	123,028
花壇用苗ものの類	125,300	8,813	7%	116,487
計				729,914

※全国計、主産県計については「x」公表の数値を含んでいない。

(その場合の団体調査結果、巡回・見積り・情報収集結果についても数値を含んでいない。)

<団体シェアの色分けの凡例>

	80%以上
	60%以上80%未満
	40%以上60%未満
	20%以上40%未満
	20%未満

令和3年産面積調査における団体調査、巡回・見積り・情報収集結果整理表

	作付面積公表値 (全国計or主産県計) ha (花きはa)	団体調査結果		巡回・見積り ・情報収集結果
			団体シェア	
陸稲	532	11	2%	521
小麦	220,013	208,401	95%	11,612
二条大麦	38,140	36,842	97%	1,298
六条大麦	17,986	16,991	94%	995
はだか麦	6,821	5,975	88%	846
大豆	146,206	130,814	89%	15,392
牧草	647,871	353,835	55%	294,036
青刈りとうもろこし	84,916	49,584	58%	35,332
ソルゴー	10,308	173	2%	10,135
えん麦	45,073	11,276	25%	33,797
そば	65,463	48,046	73%	17,417
かんしょ	26,212	10,875	41%	15,337
なたね	1,622	1,097	68%	525
茶	38,297	18,470	48%	19,827
指定野菜	268,119	159,014	59%	109,105
特定野菜	125,943	63,204	50%	62,739
みかん	38,297	20,187	53%	18,110
その他かんきつ	21,157	11,731	55%	9,426
りんご	36,283	15,841	44%	20,442
日本なし	9,636	5,013	52%	4,623
西洋なし	1,226	721	59%	505
かき	15,883	7,098	45%	8,785
びわ	787	398	51%	389
もも	8,831	6,035	68%	2,796
すもも	2,255	1,246	55%	1,009
おうとう	3,896	2,526	65%	1,370
うめ	11,575	6,589	57%	4,986
ぶどう	15,758	9,017	57%	6,741
くり	14,424	5,138	36%	9,286
パインアップル	592	94	16%	498
キウイフルーツ	1,656	1,020	62%	636
切り花類	1,254,120	750,406	60%	503,714
球根類	20,210	14,497	72%	5,713
鉢ものの類	132,644	21,370	16%	111,274
花壇用苗ものの類	111,900	9,807	9%	102,093
計				725,744

※全国計、主産県計については「x」公表の数値を含んでいない。

(その場合の団体調査結果、巡回・見積り・情報収集結果についても数値を含んでいない。)

<団体シェアの色分けの凡例>

	80%以上
	60%以上80%未満
	40%以上60%未満
	20%以上40%未満
	20%未満

令和2年産面積調査における団体調査、巡回・見積り・情報収集結果整理表

	作付面積公表値 (全国計or主産県計) ha (花きはa)	団体調査結果		巡回・見積り ・情報収集結果
			団体シェア	
陸稲	633	23	4%	610
小麦	212,559	208,829	98%	3,730
二条大麦	39,222	37,985	97%	1,237
六条大麦	18,002	16,922	94%	1,080
はだか麦	6,330	5,210	82%	1,120
大豆	141,601	127,135	90%	14,466
牧草	719,110	378,597	53%	340,513
青刈りとうもろこし	95,183	56,349	59%	38,834
ソルゴー	12,970	543	4%	12,427
えん麦	41,087	10,922	27%	30,165
そば	66,628	47,763	72%	18,865
かんしょ	33,062	11,255	34%	21,807
なたね	1,811	1,194	66%	617
茶	39,145	21,494	55%	17,651
指定野菜	270,102	149,426	55%	120,676
特定野菜	128,477	64,742	50%	63,735
みかん	39,769	21,082	53%	18,687
その他かんきつ	24,615	13,613	55%	11,002
りんご	37,064	16,349	44%	20,715
日本なし	11,036	5,547	50%	5,489
西洋なし	1,479	887	60%	592
かき	19,013	7,477	39%	11,536
びわ	989	483	49%	506
もも	10,107	6,564	65%	3,543
すもも	2,879	1,448	50%	1,431
おうとう	4,664	2,768	59%	1,896
うめ	14,780	7,163	48%	7,617
ぶどう	17,761	9,171	52%	8,590
くり	17,914	5,466	31%	12,448
パインアップル	582	91	16%	491
キウイフルーツ	2,049	1,174	57%	875
切り花類	1,265,860	761,105	60%	504,755
球根類	21,580	15,288	71%	6,292
鉢ものの類	150,300	43,724	29%	106,576
花壇用苗ものの類	113,980	10,123	9%	103,857
計				800,166

※全国計、主産県計については「x」公表の数値を含んでいない。

(その場合の団体調査結果、巡回・見積り・情報収集結果についても数値を含んでいない。)

<団体シェアの色分けの凡例>

	80%以上
	60%以上80%未満
	40%以上60%未満
	20%以上40%未満
	20%未満

令和元年産面積調査における団体調査、巡回・見積り・情報収集結果整理表

	作付面積公表値 (全国計or主産県計) ha (花きはa)	団体調査結果		巡回・見積り ・情報収集結果
			団体シェア	
陸稲	666	21	3%	645
小麦	211,602	208,475	99%	3,127
二条大麦	37,937	37,204	98%	733
六条大麦	17,639	16,572	94%	1,067
はだか麦	5,772	4,799	83%	973
大豆	143,508	126,500	88%	17,008
牧草	673,266	359,064	53%	314,202
青刈りとうもろこし	86,239	57,168	66%	29,071
ソルゴー	11,432	301	3%	11,131
えん麦	41,618	10,661	26%	30,957
そば	65,335	47,527	73%	17,808
かんしょ	27,447	11,853	43%	15,594
なたね	1,890	1,222	65%	668
茶	35,637	19,407	54%	16,230
指定野菜	300,309	154,938	52%	145,371
特定野菜	150,022	69,220	46%	80,802
みかん	40,775	21,860	54%	18,915
その他かんきつ	25,086	12,487	50%	12,599
りんご	37,445	16,069	43%	21,376
日本なし	11,402	5,339	47%	6,063
西洋なし	1,510	801	53%	709
かき	19,388	7,295	38%	12,093
びわ	1,135	489	43%	646
もも	10,306	6,151	60%	4,155
すもも	2,934	1,342	46%	1,592
おうとう	4,688	2,698	58%	1,990
うめ	15,227	6,912	45%	8,315
ぶどう	17,819	9,171	51%	8,648
くり	18,422	5,280	29%	13,142
パインアップル	580	92	16%	488
キウイフルーツ	2,051	1,070	52%	981
切り花類	1,380,000	797,562	58%	582,438
球根類	25,900	16,230	63%	9,670
鉢ものの類	154,900	25,082	16%	129,818
花壇用苗ものの類	132,700	13,605	10%	119,095
計				805,509

※全国計、主産県計については「x」公表の数値を含んでいない。

(その場合の団体調査結果、巡回・見積り・情報収集結果についても数値を含んでいない。)

<団体シェアの色分けの凡例>

	80%以上
	60%以上80%未満
	40%以上60%未満
	20%以上40%未満
	20%未満

1. 筆ポリゴンの単位区ごとに現地確認を実施。

ほ場ごとに作付けされた品目を記入し、品目ごとに面積を集計

20 a	10 a	10 a
10 a	10 a	20 a
20 a	20 a	10 a
10 a	10 a	20 a
40 a	10 a	10 a
20 a	60 a	
10 a		

品目	
もも	40 a
なし	60 a
ぶどう	90 a
りんご	60 a
くり	20 a
うめ	50 a
不作付	10 a

◎公表値の作成

パターン1 JA等の関係団体のみ出荷している生産者、それ以外（直売、観光園等）の生産者が明確に分けられる地域

例えば、ぶどうの団体調査票結果は45 a + それ以外の生産者から聞き取った15aを加えて60aを公表値とする。

この場合も、団体調査結果は作付面積の増減要因や作柄・被害の概況を把握する上で貴重な情報源として重宝。

パターン2 JA等の関係団体への出荷分、それ以外（直売、観光園等）の出荷分が明確に分けられない地域

例えば、うめの団体調査票結果は30 a で現地確認をした結果は50aであれば、より総量を捉えた50aを公表値とする。

この場合も、団体調査結果は作付面積の増減要因や作柄・被害の概況を把握する上で貴重な情報源として重宝。

パターン3 JA等の関係団体への出荷が全くない地域

例えば、くりの団体調査票結果は存在しないが、現地確認をした結果は20aであれば、総量を捉えた20aを公表値とする。

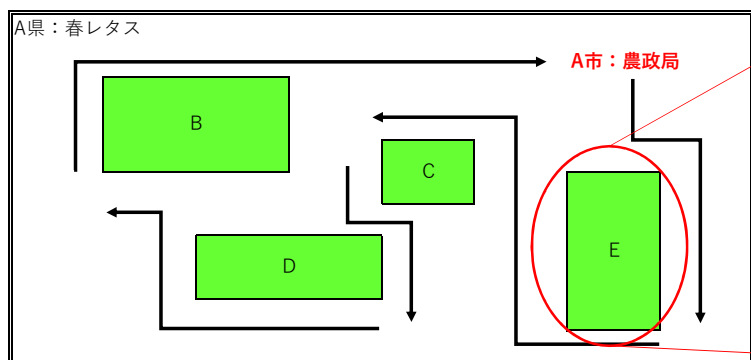
この場合も、当該地域のJA等には該当作物の出荷の有無は確認を行う。

2. 毎年、県内の主要作付地帯を効率的に確認できる巡回コースを設定

地帯ごとに作付面積を見積り又は前年比較を行い整理

例えば、A農協の報告値120a、巡回による見積り170 a であれば公表は170 a

例えば、A農協からの情報でB、C、Dは農協出荷と判明すればEのみ確認。



- ①当該地域の地図で事前に全体の耕地面積を把握し、現地で作付割合を見積もる
例えば、当該地域の耕地面積が4 ha、そのうち半分程度が対象作物の作付なら $4\text{ha} \times 50\% = 2\text{ha}$
- ②ほ場の平均面積×枚数で見積もる
例えば、当該地域のほ場が平均10aで20枚の作付を確認なら $10\text{a} \times 20\text{枚} = 2\text{ha}$
- ③前年に確認し記録した結果と比較して見積もる
例えば、前年の確認時は12枚、本年の確認時は10枚なら $10/12 = \text{前年比}83\%$

3. 県、市町村等の関係機関からの情報に基づく現地確認

例えば、県等から荒廃農地を開墾し営農開始した企業等の情報を入手

対象者とコンタクトを取り、巡回コースの設定や情報収集先に追加

図1 母集団の範囲

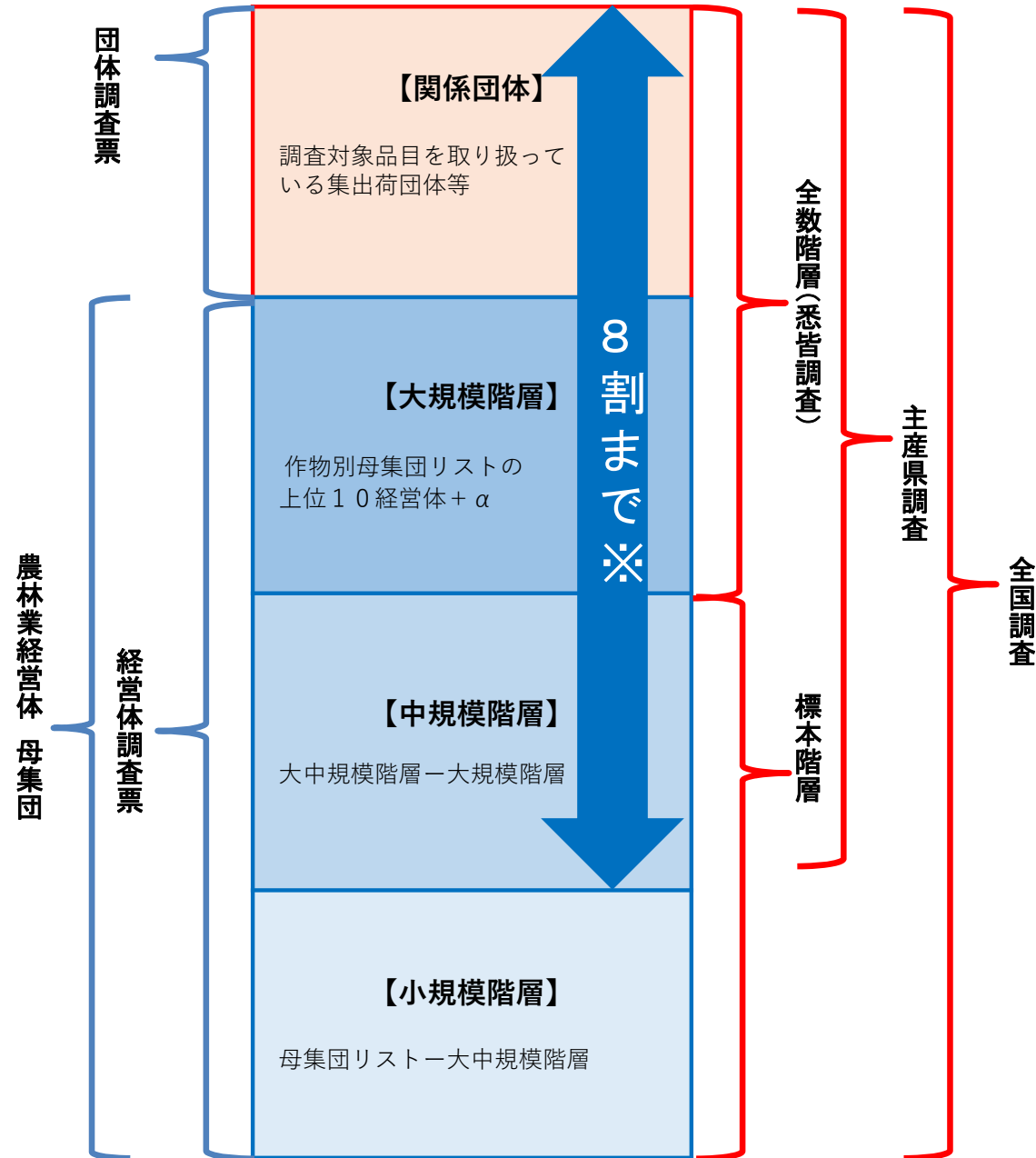
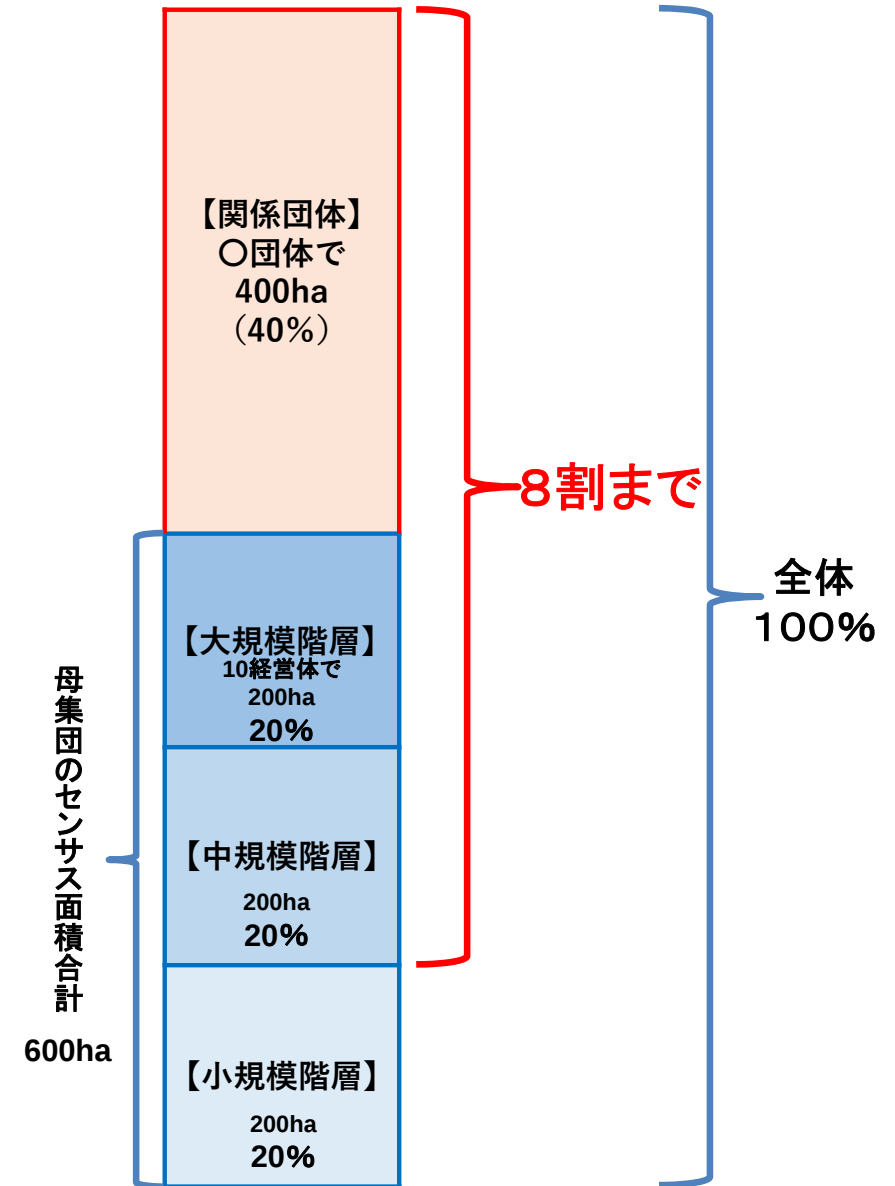


図2 関係団体で40%の把握ができる場合



※団体面積割合 + 大中階層面積割合 = 8割を図で表すと図2のとおり

※関係団体にしか出荷していない農林業経営体は、母集団から除外
 ※大中規模階層は、母集団のセンサス面積合計値から8割までの割合になるまでを定める。

団体シェアの違いを図で表すと以下のとおり
 (県全体で作付面積が1,000ha、農林業経営体が350経営体の場合)

図3 団体の割合が50%の場合

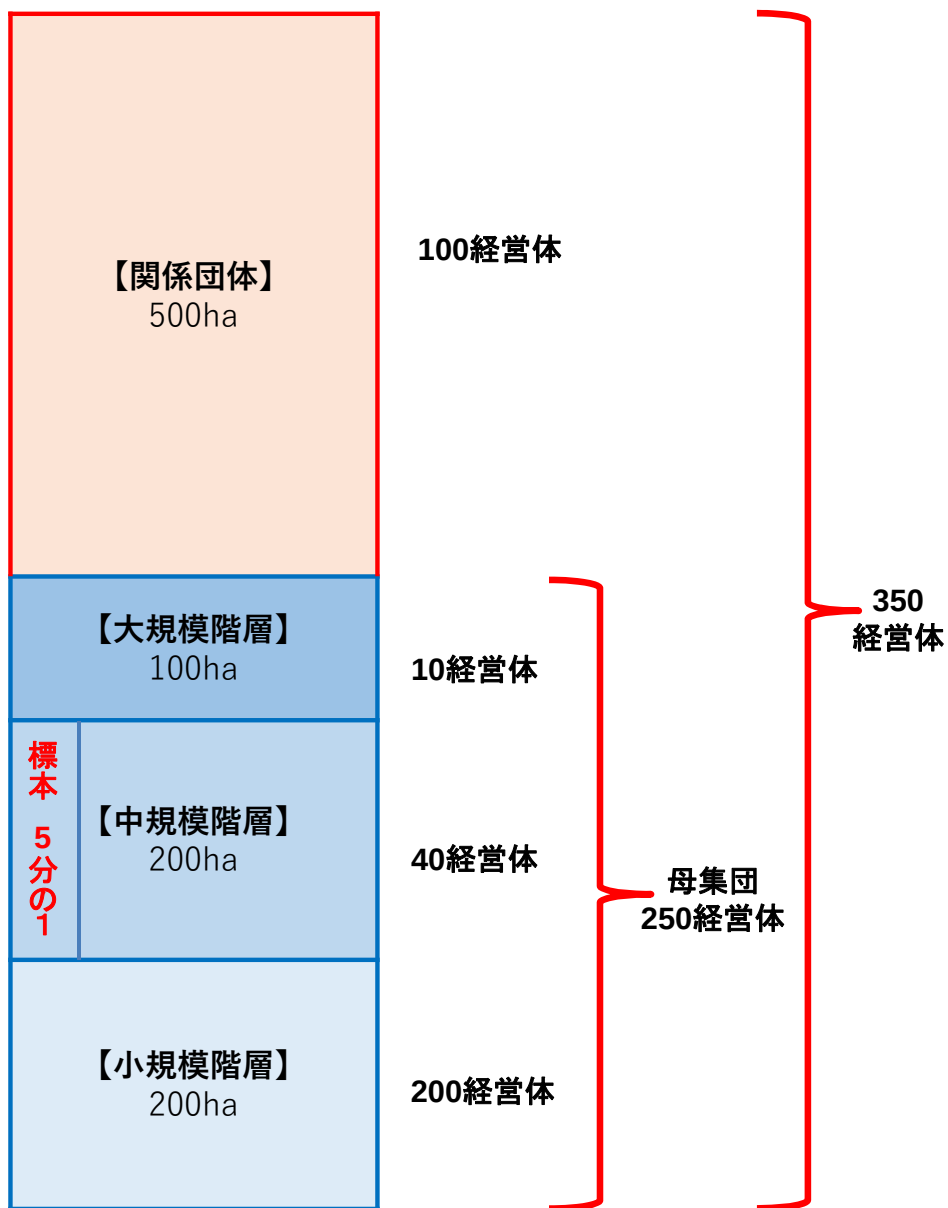
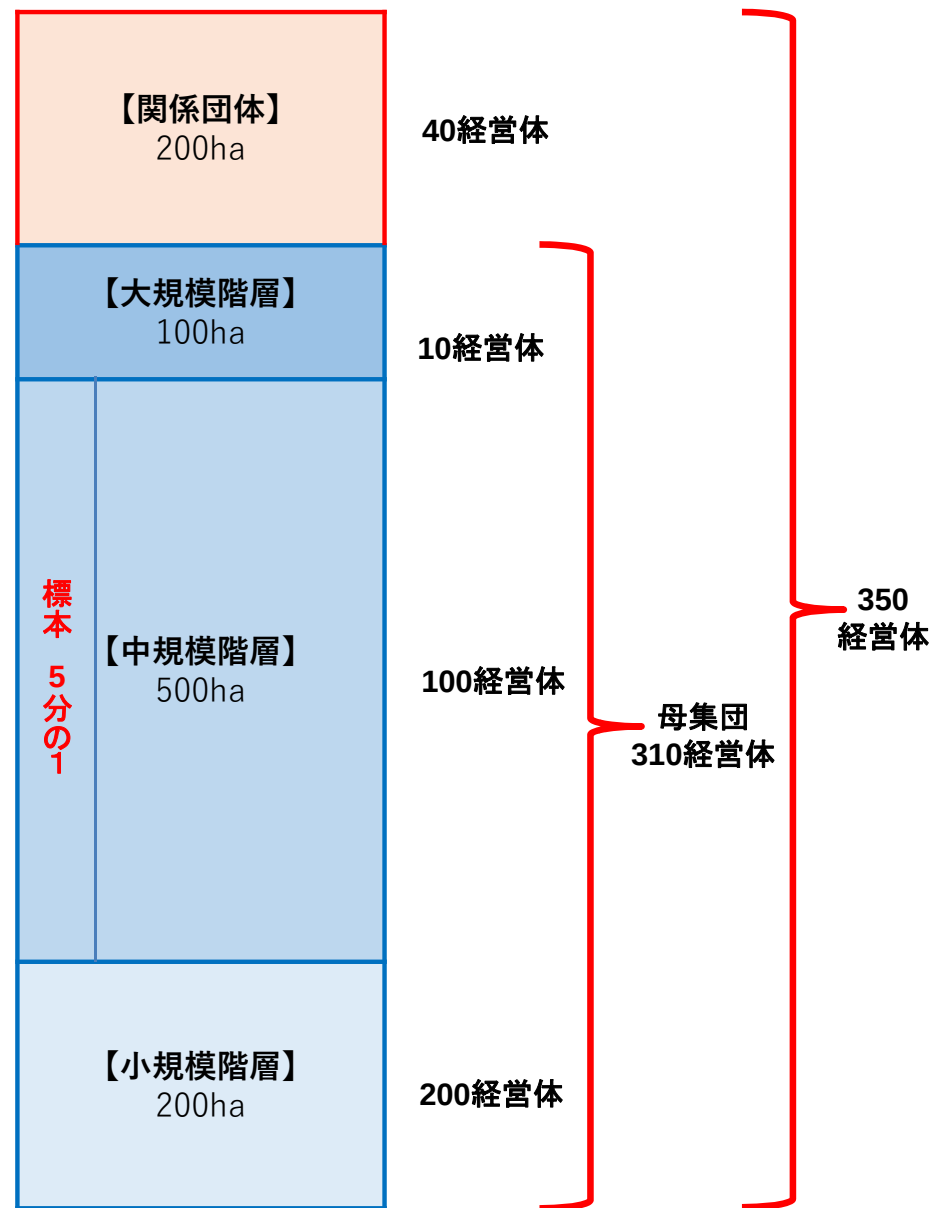


図4 団体の割合が20%の場合



※経営体調査票で関係団体にも出荷していた場合は、把握した出荷割合で按分し、作付面積を算出

○ 調査結果からのフィードバックや他統計の結果などから母集団名簿を補正

1 調査結果のフィードバック

・調査結果で2経営体が作付中止：

○ → ✕

2 調査結果以外の母集団補正の手順

3 翌年産の母集団に反映

・母集団に追加：●

面積規模にあわせた母集団番号となるよう追加

・母集団から削除：✕

規模階層	階層別 母集団番号	抽出等の状況
大規模	1	○
	2	○
中規模	1	
	2	
	3	
	4	
	5	○ → ✕
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	○
小規模	1	
	2	
	3	
	4	○ → ✕
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	

新規経営体を把握

農業構造動態調査において、次に該当する経営体について、**作物・品目別**作付面積等を**電話等で確認**

- ① 農産物の**販売金額が1億円以上**の経営体かつ、
- ② 「**農協へ**」、「**農協以外の集出荷団体へ**」以外に**出荷**した経営体

【参考：農業構造動態調査票（抜粋）】

【7】農産物の販売

1 過去1年間の農産物の販売金額（売上高）について、該当するもの1つに必ず記入してください。

販売なし	前年	本年
50万円未満		
50～100万円未満		
100～300万円未満		
300～500万円未満		
500～1,000万円未満		
1,000～3,000万円未満		
3,000～5,000万円未満		
5,000万円～1億円未満		
1億円～2億円未満		
2億円～3億円未満		
3億円～5億円未満		
5億円以上		

出荷先	前年	本年
農協へ	721	
農協以外の集出荷団体へ	722	
卸売市場へ	723	
小売業者へ	724	
食品製造業・外食産業へ	725	
自営の農産物直売所	726	
その他の農産物直売所	727	
インターネット	728	
他の方法で（無人販売など）	729	
その他へ	730	

農業構造動態調査以外の調査結果、新聞情報、情報収集等を基に確認した新規経営体について、作物・品目別作付面積等を電話等で確認

中止を把握

農業構造動態調査等の**調査結果、情報収集等**で**廃業・作付中止**を把握

追加

削除

規模階層	階層別 母集団番号	追加・削除 の状況
大規模	1	
	2	
	新規	●
中規模	1	
	2	
	3	✕
	4	
	5	○ → ✕
	6	
	7	
	新規	●
	8	
	9	
小規模	10	
	11	
	12	
	13	✕
	14	
	15	○ → ✕
	16	
	17	
	18	
	19	

翌々年産以降も同様に母集団の補正

別紙 5 - 1

令和 6 年産主産県（令和 4 年全国調査の結果から算出）

指定野菜	主産県の数	作付面積 全国値(ha)	作付面積 主産県値(ha)	主産県 割合(%)
春 だ い こ ん	15	4,048	3,277	81.0
夏 だ い こ ん	6	5,287	4,406	83.3
秋冬だいこん	24	18,793	15,191	80.8
春夏にんじん	9	3,984	3,255	81.7
秋 に ん じ ん	1	5,045	4,170	82.7
冬 に ん じ ん	13	7,434	6,029	81.1
ば れ い し ょ	4	71,360	57,548	80.6
秋冬さといも	22	10,067	8,204	81.5
春 は く さ い	7	1,853	1,501	81.0
夏 は く さ い	2	2,409	2,130	88.4
秋冬はくさい	23	11,782	9,467	80.4
春 キャベツ	17	8,721	7,031	80.6
夏秋キャベツ	8	10,151	8,291	81.7
冬 キャベツ	17	15,038	12,188	81.0
ほうれんそう	20	18,911	15,269	80.7
春 レ タ ス	11	3,930	3,155	80.3
夏 秋 レ タ ス	4	8,484	7,178	84.6
冬 レ タ ス	9	7,516	6,034	80.3
春 ね ぎ	19	3,323	2,683	80.7
夏 ね ぎ	21	4,797	3,900	81.3
秋 冬 ね ぎ	22	13,686	10,998	80.4
た ま ね ぎ	7	25,158	20,249	80.5
冬春きゅうり	15	2,579	2,079	80.6
夏秋きゅうり	26	7,189	5,829	81.1
冬 春 な す	9	1,033	849	82.2
夏 秋 な す	26	6,918	5,605	81.0
冬 春 ト マ ト	18	3,792	3,073	81.0
夏 秋 ト マ ト	23	7,377	5,941	80.5
冬春ピーマン	4	746	639	85.7
夏秋ピーマン	23	2,423	1,970	81.3

令和元年産主産県（平成 2 8 年全国調査の結果から算出）

指定野菜	主産県の数	作付面積 全国値(ha)	作付面積 主産県値(ha)	主産県 割合(%)
春 だ い こ ん	15	4,590	3,717	81.0
夏 だ い こ ん	5	6,240	5,112	81.9
秋冬だいこん	25	21,500	17,470	81.3
春夏にんじん	11	17,800	14,567	81.8
秋 に ん じ ん	1	5,580	4,590	82.3
冬 に ん じ ん	13	7,830	6,324	80.8
ば れ い し ょ	5	77,200	61,990	80.3
秋冬さといも	22	12,200	9,904	81.2
春 は く さ い	7	1,860	1,491	80.2
夏 は く さ い	2	2,490	2,080	83.5
秋冬はくさい	24	13,000	10,541	81.1
春 キャベツ	19	9,000	7,310	81.2
夏秋キャベツ	8	10,200	8,172	80.1
冬 キャベツ	17	15,400	12,329	80.1
ほうれんそう	20	20,700	16,649	80.4
春 レ タ ス	11	4,340	3,478	80.1
夏 秋 レ タ ス	4	9,190	7,773	84.6
冬 レ タ ス	10	8,050	6,663	82.8
春 ね ぎ	19	3,460	2,784	80.5
夏 ね ぎ	22	5,000	4,046	80.9
秋 冬 ね ぎ	23	14,200	11,518	81.1
た ま ね ぎ	7	25,800	20,672	80.1
冬春きゅうり	15	2,860	2,304	80.6
夏秋きゅうり	26	8,060	6,540	81.1
冬 春 な す	9	1,090	887	81.4
夏 秋 な す	26	8,190	6,591	80.5
冬 春 ト マ ト	18	4,010	3,249	81.0
夏 秋 ト マ ト	23	8,100	6,510	80.4
冬春ピーマン	4	733	636	86.8
夏秋ピーマン	24	2,540	2,039	80.3

主産県数 の差 (R6-R 元)	主産県割合 ポイント差 (R6-R元)
0	0.0
1	1.4
△ 1	△ 0.5
△ 2	△ 0.1
0	0.4
0	0.3
△ 1	0.3
0	0.3
0	0.8
0	4.9
△ 1	△ 0.7
△ 2	△ 0.6
0	1.6
0	0.9
0	0.3
0	0.2
0	0.0
△ 1	△ 2.5
0	0.2
△ 1	0.4
△ 1	△ 0.7
0	0.4
0	0.0
0	0.0
0	0.8
0	0.5
0	0.0
0	0.1
0	△ 1.1
△ 1	1.0

令和6年産主産県（令和4年全国調査の結果から算出）

特定野菜	主産県の数	作付面積 全国値(ha)	作付面積 主産県値(ha)	主産県 割合(%)
かぶ	19	3,873	3,124	80.7
ごぼう	8	7,139	5,716	80.1
れんこん	6	4,018	3,333	83.0
やまのいも	6	6,625	5,417	81.8
こまつな	18	7,388	5,983	81.0
ちんげんさい	14	2,052	1,648	80.3
ふき	16	419	340	81.1
みつば	9	826	676	81.8
しゅんぎく	20	1,726	1,392	80.6
みずな	10	2,318	1,856	80.1
セルリー	6	532	437	82.1
アスパラガス	11	4,355	3,591	82.5
カリフラワー	16	1,253	1,003	80.0
ブロッコリー	15	17,196	13,920	80.9
にら	9	1,893	1,528	80.7
にんにく	10	2,549	2,049	80.4
かぼちゃ	16	14,450	11,679	80.8
スイートコーン	15	21,302	17,277	81.1
さやいんげん	23	4,461	3,568	80.0
さやえんどう	23	2,647	2,117	80.0
グリーンピース	13	600	491	81.8
そらまめ	16	1,577	1,272	80.7
えだまめ	15	12,693	10,310	81.2
しょうが	9	1,692	1,369	80.9
いちご	22	4,846	3,925	81.0
メロン	9	5,793	4,792	82.7
すいか	18	8,943	7,302	81.7

令和元年産主産県（平成28年全国調査の結果から算出）

特定野菜	主産県の数	作付面積 全国値(ha)	作付面積 主産県値(ha)	主産県 割合(%)
かぶ	20	4,510	3,662	81.2
ごぼう	9	8,040	6,474	80.5
れんこん	6	3,930	3,221	82.0
やまのいも	7	7,120	5,862	82.3
こまつな	19	6,890	5,562	80.7
ちんげんさい	15	2,220	1,809	81.5
ふき	18	571	467	81.8
みつば	9	979	789	80.6
しゅんぎく	21	1,960	1,584	80.8
みずな	13	2,510	2,039	81.2
セルリー	6	585	483	82.6
アスパラガス	10	5,420	4,443	82.0
カリフラワー	17	1,220	980	80.3
ブロッコリー	16	14,600	11,773	80.6
にら	9	2,120	1,715	80.9
にんにく	10	2,410	1,930	80.1
かぼちゃ	16	16,000	12,890	80.6
スイートコーン	14	24,000	19,523	81.3
さやいんげん	24	5,650	4,594	81.3
さやえんどう	24	3,070	2,490	81.1
グリーンピース	12	805	651	80.9
そらまめ	16	1,980	1,613	81.5
えだまめ	16	12,800	10,452	81.7
しょうが	10	1,810	1,474	81.4
いちご	22	5,370	4,339	80.8
メロン	9	6,950	5,688	81.8
すいか	18	10,380	8,410	81.0

主産県数 の差 (R6-R3)	主産県割合 ポイント差 (R6-R3)
△1	△0.5
△1	△0.4
0	1.0
△1	△0.5
△1	0.3
△1	△1.2
△2	△0.7
0	1.2
△1	△0.2
△3	△1.1
0	△0.5
1	0.5
△1	△0.3
△1	0.3
0	△0.2
0	0.3
0	0.2
1	△0.2
△1	△1.3
△1	△1.1
1	0.9
0	△0.8
△1	△0.5
△1	△0.5
0	0.2
0	0.9
0	0.7

令和5年産主産県（令和4年全国調査の結果から算出）

花き	主産県の数	作付面積 全国値(a)	作付面積 主産県値(a)	主産県 割合(%)
切り花類計	22	1,296,976	1,049,943	81.0
きく	13	409,222	331,547	81.0
カーネーション	8	23,731	19,281	81.2
ばら	19	26,903	21,631	80.4
りんどう	4	39,557	32,440	82.0
かすみそう	4	19,497	16,122	82.7
スターチス	4	16,602	13,282	80.0
ガーベラ	6	7,499	5,999	80.0
トルコギキョウ	17	39,190	31,862	81.3
ゆり	12	63,517	51,507	81.1
アストロメリア	6	8,049	6,605	82.1
切り葉	5	56,412	46,654	82.7
切り枝	15	358,905	290,570	81.0
球根類計	4	23,373	19,563	83.7
鉢物類計	16	145,188	117,210	80.7
シクラメン	15	15,590	12,530	80.4
鉢・洋蘭	13	16,793	13,652	81.3
観葉植物	7	25,717	21,329	82.9
花木	10	29,008	23,574	81.3
花壇用苗もの類計	22	125,280	100,720	80.4
パンジー	23	23,623	19,070	80.7

平成30年産主産県（令和28年全国調査の結果から算出）

花き	主産県の数	作付面積 全国値(ha)	作付面積 主産県値(ha)	主産県 割合(%)	主産県数 の差 (R5-H30)	主産県割合 ポイント差 (R5-H30)
切り花類計	23	1,538,000	1,246,800	81.1	△1	△0.1
きく	15	509,600	416,470	81.7	△2	△0.7
カーネーション	9	34,800	28,414	81.6	△1	△0.4
ばら	22	39,500	31,959	80.9	△3	△0.5
りんどう	5	45,200	38,670	85.6	△1	△3.6
かすみそう	5	25,079	20,279	80.9	△1	1.8
スターチス	5	19,200	15,686	81.7	△1	△1.7
ガーベラ	8	9,420	7,854	83.4	△2	△3.4
トルコギキョウ	16	43,100	34,567	80.2	1	1.1
ゆり	14	78,900	64,090	81.2	△2	△0.1
アストロメリア	6	8,890	7,290	82.0	0	0.1
切り葉	5	71,000	58,630	82.6	0	0.1
切り枝	17	371,800	300,800	80.9	△2	0.1
球根類計	4	41,400	33,700	81.4	0	2.3
鉢物類計	17	179,600	145,580	81.1	△1	△0.4
シクラメン	16	20,300	16,398	80.8	△1	△0.4
鉢・洋蘭	14	21,900	17,743	81.0	△1	0.3
観葉植物	7	32,300	26,550	82.2	0	0.7
花木	10	42,600	34,208	80.3	0	1.0
花壇用苗もの類計	23	153,100	123,050	80.4	△1	0.0
パンジー	23	30,000	24,413	81.4	0	△0.7

令和6年産と令和元年産の主産県整理表

※作付面積の上位8割を占めるまでの都道府県に、指定産地の区域を含む都道府県及び畑作物共済事業を実施する都道府県

	春だいこん		夏だいこん		秋冬だいこん		春夏にんじん		秋にんじん		冬にんじん		ばれいしょ		秋冬さといも		春はくさい		夏はくさい		秋冬はくさい	
主産県数	令和6年 20	令和元年 19	令和6年 13	令和元年 13	令和6年 36	令和元年 37	令和6年 18	令和元年 20	令和6年 3	令和元年 2	令和6年 22	令和元年 20	令和6年 16	令和元年 16	令和6年 25	令和元年 25	令和6年 10	令和元年 11	令和6年 4	令和元年 4	令和6年 30	令和元年 32
北海道	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○				○	○	○	○	○
青森	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○		
岩手			○	○	○	○	○	○							○	○					○	○
宮城					○	○							○	○							○	○
秋田					○	○															○	○
山形					○	○									○	○					○	○
福島					○	○					○	○	○	○	○	○					○	○
茨城	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○			○	○
栃木	○	○	○	○		○									○	○					○	○
群馬	○		○	○	○	○									○	○			○	○	○	○
埼玉	○	○			○	○	○	○			○	○			○	○					○	○
千葉	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○					○	○
東京						○					○	○			○	○						
神奈川	○	○			○	○									○	○						
新潟					○	○	○	○			○	○			○	○					○	○
富山			○	○	○	○					○				○	○					○	○
石川					○	○					○	○										
福井	○	○			○	○			○		○				○	○						
山梨																						
長野			○	○	○	○							○	○			○	○	○	○	○	○
岐阜	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○			○	○					○	○
静岡	○	○			○	○	○	○					○	○	○	○						
愛知	○	○			○	○		○			○	○			○	○	○	○			○	○
三重											○	○	○	○	○	○					○	○
滋賀					○	○															○	○
京都																						
大阪															○	○						
大分			○	○	○	○	○	○							○						○	○
奈良					○	○																
和歌山					○	○	○	○									○	○			○	○
鳥取											○	○										○
島根																						
岡山	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○			○	○
広島	○	○	○	○	○	○							○	○							○	○
山口	○	○	○	○	○	○										○		○			○	○
徳島					○	○	○	○													○	○
香川	○	○			○	○					○	○										
愛媛															○	○					○	○
高知																						
福岡	○	○			○	○									○	○						○
佐賀													○	○								
長崎	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○			○	○			○	○
熊本	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○			○	○
大分					○	○	○	○			○	○			○	○	○	○			○	○
宮崎					○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○			○	○
鹿児島	○	○			○	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○			○	○
沖縄							○	○			○	○										

	春キャベツ		夏秋キャベツ		冬キャベツ		ほうれんそう		春レタス		夏秋レタス		冬レタス		春ねぎ		夏ねぎ		秋冬ねぎ		たまねぎ	
主産県数	令和6年 26	令和元年 29	令和6年 16	令和元年 17	令和6年 28	令和元年 28	令和6年 33	令和元年 31	令和6年 18	令和元年 18	令和6年 8	令和元年 7	令和6年 17	令和元年 18	令和6年 22	令和元年 22	令和6年 27	令和元年 28	令和6年 38	令和元年 39	令和6年 25	令和元年 25
北海道			○	○	○	○	○	○			○	○					○	○	○	○	○	○
青森			○	○							○	○					○	○	○	○		
岩手			○	○			○	○	○	○	○	○					○	○	○	○		
宮城	○	○	○	○			○	○							○	○	○	○	○	○		
秋田				○			○	○									○	○	○	○		
山形																	○	○	○	○		
福島		○					○	○							○		○		○	○	○	
茨城	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
栃木							○	○	○	○	○		○	○			○	○	○	○	○	○
群馬	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○
埼玉	○	○			○	○	○	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
千葉	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京	○	○	○	○	○	○	○	○														
神奈川	○	○	○	○	○	○	○	○	○										○	○		
新潟																	○	○	○	○		
富山	○	○					○	○									○	○	○	○	○	○
石川																	○	○	○	○		
福井					○	○	○	○									○	○	○	○		
山梨			○	○																		
長野	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○
岐阜		○					○	○												○	○	○
静岡	○	○			○	○	○		○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
愛知	○	○			○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三重	○	○			○	○									○	○	○	○	○	○	○	○
滋賀					○	○	○	○														
京都	○	○					○	○							○	○						
大阪	○	○			○	○							○	○		○		○			○	○
兵庫	○	○			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○
奈良							○	○		○									○	○		
和歌山	○	○			○	○	○	○													○	○
鳥取			○	○	○	○	○	○							○	○	○	○	○	○		
島根				○	○	○													○	○	○	○
岡山	○	○	○	○	○	○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
広島			○	○	○	○	○	○							○	○	○	○	○	○		
山口	○	○			○	○	○	○													○	○
徳島	○	○			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○		
香川	○	○			○	○			○	○			○	○	○	○	○		○	○	○	○
愛媛		○				○	○	○					○	○					○	○	○	○
高知															○	○			○	○		
福岡	○	○			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
佐賀					○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○
長崎	○	○			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
熊本	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○					○	○	○	○
大分	○	○	○						○	○	○	○			○	○	○	○	○	○		
宮崎	○	○			○	○	○	○											○	○		○
鹿児島	○	○			○	○								○	○	○		○	○	○		
沖縄									○	○			○	○								

	冬春きゅうり		夏秋きゅうり		冬春なす		夏秋なす		冬春トマト		夏秋トマト		冬春ピーマン		夏秋ピーマン		かぶ		ごぼう		れんこん	
主産県数	令和6年 31	令和元年 30	令和6年 38	令和元年 37	令和6年 16	令和元年 18	令和6年 36	令和元年 36	令和6年 33	令和元年 33	令和6年 38	令和元年 39	令和6年 7	令和元年 7	令和6年 25	令和元年 28	令和6年 20	令和元年 20	令和6年 8	令和元年 9	令和6年 8	令和元年 8
北海道			○	○					○	○	○	○			○	○	○	○	○	○		
青森			○	○					○	○	○	○			○	○	○	○	○	○		
岩手	○	○	○	○			○	○			○	○			○	○						
宮城	○	○	○	○			○	○			○	○			○							
秋田			○	○			○	○			○	○				○						
山形	○	○	○	○			○	○			○	○			○	○	○	○				
福島	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○				
茨城	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
栃木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○		○		
群馬	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							○	○		
埼玉	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							○	○				
千葉	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○		
東京																	○	○				
神奈川	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○					○	○				
新潟	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○				
富山			○	○			○	○			○	○					○	○				
石川			○	○					○	○	○	○										
福井							○	○			○	○										
山梨	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○										
長野			○	○			○	○			○	○			○	○						
岐阜	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○				
静岡									○	○		○										
愛知	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○
三重	○	○					○	○	○	○	○	○			○	○	○	○				
滋賀	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○					○	○				
京都			○	○			○	○			○	○			○	○	○	○				
大阪			○	○	○	○	○	○														
兵庫			○	○			○	○	○	○	○	○			○	○					○	○
奈良			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
和歌山	○	○	○	○					○	○			○	○		○						
鳥取											○	○			○	○						
島根	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○			○	○		○				
岡山			○	○	○	○	○	○			○	○				○					○	○
広島	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○			○	○	○					
山口	○	○	○	○			○	○			○	○				○					○	○
徳島	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○
香川	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
愛媛	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○						
高知	○	○			○	○			○	○			○	○	○	○						
福岡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○				
佐賀	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											○	○
長崎	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○										
熊本	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○
大分			○	○			○	○			○	○			○	○						
宮崎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
鹿児島	○	○				○			○	○			○	○	○	○			○	○		
沖縄	○								○	○			○	○								

[illegible]

[illegible]

	メロン		すいか	
主産県数	令和6年 13	令和元年 13	令和6年 25	令和元年 25
北海道	○	○	○	○
青森	○	○	○	○
岩手				
宮城				
秋田	○	○	○	○
山形	○	○	○	○
福島				
茨城	○	○	○	○
栃木				
群馬				
埼玉				
千葉	○	○	○	○
東京				
神奈川			○	○
新潟			○	○
富山				
石川	○	○	○	○
福井	○	○	○	○
山梨				
長野			○	○
岐阜				
静岡	○	○	○	○
愛知	○	○	○	○
三重				
滋賀				○
京都				
大阪				
兵庫			○	○
奈良			○	○
和歌山			○	○
鳥取	○	○	○	○
島根				
岡山	○	○	○	○
広島				
山口			○	○
徳島				
香川				
愛媛			○	○
高知				
福岡			○	○
佐賀				
長崎			○	○
熊本	○	○	○	○
大分			○	
宮崎				
鹿児島			○	○
沖縄				

令和 5 年産と平成30年産の主産県整理表

	きく		カーネーション		ばら		りんどう		宿根かすみそう		スターチス		ガーベラ		トルコギキョウ		ゆり		アルストロメリア		切り葉		切り枝	
	令和 5 年	平成30年	令和 5 年	平成30年	令和 5 年	平成30年	令和 5 年	平成30年	令和 5 年	平成30年	令和 5 年	平成30年	令和 5 年	平成30年	令和 5 年	平成30年	令和 5 年	平成30年	令和 5 年	平成30年	令和 5 年	平成30年	令和 5 年	平成30年
主 産 県 数	13	15	8	9	19	22	4	5	4	5	4	5	6	7	17	16	12	14	6	6	5	5	15	17
北 海 道			○	○		○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○				
青 森															○	○								
岩 手		○					○	○									○	○						
宮 城						○									○	○								
秋 田	○	○					○	○							○	○								
山 形					○	○	○	○							○	○			○	○			○	○
福 島	○	○					○	○	○	○					○	○	○	○					○	○
茨 城	○	○			○	○							○						○	○			○	○
栃 木	○	○			○	○									○			○						
群 馬					○	○										○							○	○
埼 玉					○												○	○						○
千 葉			○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○
東 京																					○	○		
神 奈 川					○	○																		
新 潟																	○	○						
富 山																								
石 川																								
福 井																								
山 梨						○																		
長 野	○	○	○	○	○	○		○			○	○			○	○	○	○	○	○			○	○
岐 阜					○																			
静 岡	○	○	○	○	○	○							○	○	○	○					○		○	○
愛 知	○	○	○	○	○	○							○	○	○	○			○	○		○		
三 重						○																		○
滋 賀					○																			
京 都																								
大 阪																								
兵 庫			○	○	○																			
奈 良	○	○				○																	○	○
和 歌 山					○	○			○	○	○	○	○	○									○	○
鳥 取																								
島 根																○								
岡 山					○	○																		
広 島																								
山 口						○																		
徳 島																	○						○	○
香 川																								
愛 媛					○	○																	○	○
高 知										○					○	○	○	○					○	○
福 岡	○	○	○	○	○	○							○	○	○	○	○	○					○	
佐 賀					○	○									○									
長 崎	○	○	○	○									○		○									
熊 本		○		○	○	○			○	○		○		○	○	○	○	○						○
大 分	○	○				○										○			○	○			○	○
宮 崎																	○	○					○	○
鹿 児 島	○	○															○	○			○	○	○	○
沖 縄	○	○													○						○	○		

	シクラメン		洋ラン類		観葉植物		花木類		パンジー	
主産県数	令和5年	平成30年	令和5年	平成30年	令和5年	平成30年	令和5年	平成30年	令和5年	平成30年
	15	16	13	14	7	7	10	10	23	23
北海道		○								
青森										
岩手		○								○
宮城										
秋田										
山形	○								○	○
福島	○	○						○		○
茨城	○	○					○	○	○	○
栃木	○	○	○	○			○		○	○
群馬	○	○						○	○	○
埼玉	○	○	○	○			○	○	○	○
千葉	○	○	○		○	○	○	○	○	○
東京	○	○			○	○			○	○
神奈川	○	○		○					○	○
新潟							○	○		
富山										
石川										
福井										
山梨	○	○	○	○						
長野	○	○	○	○			○			
岐阜	○	○					○	○	○	
静岡			○	○	○	○	○	○	○	○
愛知	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三重		○		○	○	○			○	○
滋賀										
京都										○
大阪									○	○
兵庫									○	○
奈良									○	○
和歌山										
鳥取									○	○
島根										
岡山			○	○					○	○
広島									○	○
山口									○	
徳島			○	○						
香川										
愛媛										
高知			○	○						
福岡	○	○	○	○			○	○	○	○
佐賀	○								○	
長崎										
熊本			○	○					○	○
大分										
宮崎			○	○					○	○
鹿児島					○	○				
沖縄					○	○				

大・中規模階層までのシェアと小規模階層のシェア比較表

【野菜調査】

	秋冬はくさい		秋冬だいこん		冬にんじん	
	作付面積	団体シェア	作付面積	団体シェア	作付面積	団体シェア
愛知	310	38%	343	12%	320	48%

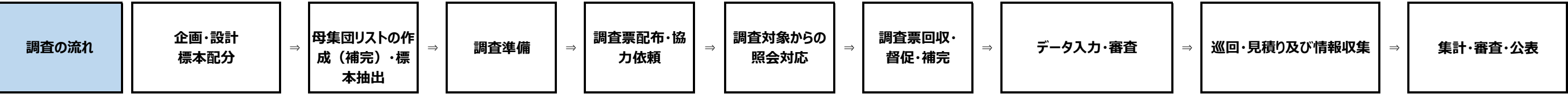
【愛知】	秋冬はくさい		秋冬だいこん		冬にんじん	
センサス年	2015	2020	2015	2020	2015	2020
センサス母集団面積	277	246	400	253	328	278
団体出荷分の面積 (ha)	118	118	41	41	154	154
大規模階層面積 (ha)	50	62	69	60	48	51
大規模階層割合	18.2%	25.4%	17.3%	23.9%	14.7%	18.5%
中規模階層面積 (ha)	136	103	239	134	153	119
中規模階層割合	49.6%	42.3%	59.9%	53.4%	46.8%	43.1%
大中規模階層割合	67.7%	67.7%	77.3%	77.3%	61.5%	61.5%
小規模階層面積 (ha)	89	79	90	57	125	106
小規模階層割合	32.3%	32.3%	22.7%	22.7%	38.5%	38.5%

【花き調査】

	切り花類		鉢ものの類	
	作付面積	団体シェア	作付面積	団体シェア
愛知	154,424	67%	30,888	19%

【愛知】	切り花類		鉢ものの類	
センサス年	2015	2020	2015	2020
センサス母集団面積(a)	117,178	114,157	35,106	24,132
団体出荷分の面積(a)	102,464	102,464	5,869	5,869
大規模階層面積(a)	9,104	8,006	7,957	4,166
大規模階層割合	7.8%	7.0%	22.7%	17.3%
中規模階層面積(a)	37,057	36,965	18,481	14,007
中規模階層割合	31.6%	32.4%	52.6%	58.0%
大中規模階層割合	39.4%	39.4%	75.3%	75.3%
小規模階層面積(a)	71,017	69,186	8,668	5,959
小規模階層割合	60.6%	60.6%	24.7%	24.7%

作物統計調査の民間委託の範囲（イメージ）



現 行	実施主体	農林水産省（本省）	農政局等		農政局等				農政局等	本省
	業務内容	◆調査票の作成 ◆調査項目、表章項目の決定	◆農林業センサスから母集団リスト作成（補完） ◆調査対象を抽出	◆調査資材を準備 ◆統計調査員への研修・指導	◆調査対象経営体に調査票を配布、協力依頼	◆調査対象からの照会対応	◆調査票を回収 ・対面、郵送、オンラインにより回収 ・記入漏れ等の確認 ◆未報告者に対し督促（電話等）	◆調査票データの審査 ・記入漏れ等を再チェックしつつ入力 ・審査（レンジチェック、クロスチェック） ・エラー等があれば、必要に応じ調査対象への照会等により修正 ◆都道府県計値の集計 ◆農林水産省（本省）へ報告	◆職員による巡回及び関係機関等に対する情報収集	◆報告されたデータを農林水産統計システムで集計・審査 ・集計された都道府県計値に疑義等があれば必要に応じ農政局へ確認 ◆資料（統計表）を作成し公表
				本省					統計調査員	
				◆オンラインに係るIDを設定					◆統計調査員による巡回	

変 更 後	実施主体	農林水産省（本省）	農政局等		民間事業者（中・小規模階層）				農政局等	民間事業者	農政局等	本省
	業務内容	同上	同上	同上	◆中・小規模階層の調査対象経営体に調査票を配布、協力依頼	◆中・小規模階層の調査対象からの照会対応	◆調査票を郵送、オンラインにより回収 ・記入漏れ等の確認 ◆未報告者に対し督促（電話等）	◆調査票データの審査 ・記入漏れ等を再チェックしつつ入力 ・審査（レンジチェック、クロスチェック） ・エラー等があれば、必要に応じ調査対象への照会等により修正 ・調査票データ等の提出	・調査票のデータ化 ・報告された調査票データに疑義等があれば民間事業者・統計調査員に照会 ◆都道府県計値の集計 ◆農林水産省（本省）へ報告	巡回・見積りは民間委託による経営体への郵送調査の拡大により代替	情報収集（最小限の巡回・見積り）	同上
											統計調査員（大規模階層）	
					◆大規模階層の調査対象に調査票を配布、協力依頼	◆大規模階層の調査対象者からの照会対応	◆大規模階層の調査対象から対面、郵送、オンラインにより調査票を回収 ・記入漏れ等の確認 ◆未報告者に対し督促（電話等）	◆調査票データの審査 ・記入漏れ等を再チェックしつつ入力 ・審査（レンジチェック、クロスチェック） ・エラー等があれば、必要に応じ調査対象への照会等により修正 ・調査票データ等の提出			大規模階層への情報収集	

調査対応者別・階層別調査対象数

		団体 (約6,000)	大規模階層 (約16,000)		中規模階層 (約24,000)	小規模階層 (約25,000) ※全国調査
民間事業者（配布・回収）		6,000			24,000	25,000
地方農政局等	郵送・オンライン			(回収) 6,400		
	職員			(回収) 1,600		
	専門調査員		(配布) 16,000	(回収) 8,000		

※大規模階層について、郵送・オンラインで対応可能な客体を4割程度、職員対応を1割程度と想定。

品目	令和 2 年産公表値			令和 2 年産試算値			作付面積対比 試算値/公表値	10a当たり収量 対比 試算値/公表値	収穫量対比 試算値/公表値
	基準年（面積：令和元年 収穫量：平成28年）			基準年（面積、収穫量ともに平成28年）					
	作付面積	10a当たり収量	収穫量	作付面積	10a当たり収量	収穫量			
指定野菜	ha	kg	t	ha	kg	t			
春だいこん	4,230	4,630	195,700	4,220	4,640	195,700	99.8%	100.2%	100.0%
夏だいこん	5,600	4,170	233,700	5,670	4,130	233,700	101.3%	99.0%	100.0%
秋冬だいこん	19,900	4,140	824,300	19,900	4,140	824,300	100.0%	100.0%	100.0%
春夏にんじん	4,070	3,830	155,900	4,070	3,830	155,900	100.0%	100.0%	100.0%
秋にんじん	5,210	3,830	199,400	5,270	3,780	199,400	101.2%	98.7%	100.0%
冬にんじん	7,540	3,060	230,500	7,560	3,050	230,500	100.3%	99.7%	100.0%
春植えばれいしょ	69,600	3,110	2,167,000	69,900	3,100	2,167,000	100.4%	99.7%	100.0%
秋植えばれいしょ	2,310	1,680	38,900	2,280	1,710	38,900	98.7%	101.8%	100.0%
秋冬さといも	10,700	1,300	139,400	10,600	1,320	139,400	99.1%	101.5%	100.0%
春はくさい	1,800	6,460	116,200	1,810	6,420	116,200	100.6%	99.4%	100.0%
夏はくさい	2,330	7,040	164,100	2,350	6,980	164,100	100.9%	99.1%	100.0%
秋冬はくさい	12,500	4,900	612,000	12,500	4,900	612,000	100.0%	100.0%	100.0%
春キャベツ	8,770	4,060	356,200	8,820	4,040	356,200	100.6%	99.5%	100.0%
夏秋キャベツ	10,100	4,740	478,600	10,200	4,690	478,600	101.0%	98.9%	100.0%
冬キャベツ	15,100	3,970	598,800	15,000	3,990	598,800	99.3%	100.5%	100.0%
ほうれんそう	19,600	1,090	213,900	19,500	1,100	213,900	99.5%	100.9%	100.0%
春レタス	4,150	2,780	115,200	4,100	2,810	115,200	98.8%	101.1%	100.0%
夏秋レタス	8,840	2,990	264,200	8,850	2,990	264,200	100.1%	100.0%	100.0%
冬レタス	7,740	2,390	184,600	7,710	2,390	184,600	99.6%	100.0%	100.0%
春ねぎ	3,370	2,370	80,000	3,390	2,360	80,000	100.6%	99.6%	100.0%
夏ねぎ	4,800	1,840	88,100	4,810	1,830	88,100	100.2%	99.5%	100.0%
秋冬ねぎ	13,800	1,980	273,000	13,800	1,980	273,000	100.0%	100.0%	100.0%
たまねぎ	25,500	5,320	1,357,000	25,400	5,320	1,357,000	99.6%	100.0%	100.0%
冬春きゅうり	2,660	10,600	283,100	2,650	10,700	283,100	99.6%	100.9%	100.0%
夏秋きゅうり	7,440	3,440	256,100	7,330	3,490	256,100	98.5%	101.5%	100.0%
冬春なす	1,050	11,100	116,200	1,050	11,100	116,200	100.0%	100.0%	100.0%
夏秋なす	7,370	2,450	180,800	7,040	2,570	180,800	95.5%	104.9%	100.0%
冬春トマト	3,870	9,940	384,600	3,850	9,990	384,600	99.5%	100.5%	100.0%
夏秋トマト	7,550	4,260	321,300	7,440	4,320	321,300	98.5%	101.4%	100.0%
冬春ピーマン	729	10,200	74,000	728	10,200	74,000	99.9%	100.0%	100.0%
夏秋ピーマン	2,430	2,850	69,200	2,400	2,870	69,200	98.8%	100.7%	100.0%

特定野菜

品目

かぶ	4,160	2,520	104,800	4,170	2,510	104,800	100.2%	99.6%	100.0%
ごぼう	7,320	1,730	126,900	7,350	1,730	126,900	100.4%	100.0%	100.0%
れんこん	3,920	1,400	55,000	3,970	1,390	55,000	101.3%	99.3%	100.0%
やまのいも	6,930	2,460	170,500	7,010	2,430	170,500	101.2%	98.8%	100.0%
こまつな	7,550	1,610	121,900	7,670	1,590	121,900	101.6%	98.8%	100.0%
ちんげんさい	2,150	1,930	41,400	2,150	1,930	41,400	100.0%	100.0%	100.0%
ふき	498	1,800	8,980	493	1,820	8,980	99.0%	101.1%	100.0%
みつば	874	1,530	13,400	872	1,540	13,400	99.8%	100.7%	100.0%
しゅんぎく	1,830	1,500	27,400	1,830	1,500	27,400	100.0%	100.0%	100.0%
みずな	2,490	1,760	43,800	2,530	1,730	43,800	101.6%	98.3%	100.0%
セルリー	540	5,460	29,500	540	5,460	29,500	100.0%	100.0%	100.0%
アスパラガス	4,800	556	26,700	4,820	554	26,700	100.4%	99.6%	100.0%
カリフラワー	1,220	1,720	21,000	1,220	1,720	21,000	100.0%	100.0%	100.0%
ブロッコリー	16,600	1,050	174,500	16,600	1,050	174,500	100.0%	100.0%	100.0%
にら	1,980	2,880	57,000	1,980	2,880	57,000	100.0%	100.0%	100.0%
にんにく	2,530	838	21,200	2,550	831	21,200	100.8%	99.2%	100.0%
かぼちゃ	14,800	1,260	186,600	14,900	1,250	186,600	100.7%	99.2%	100.0%
スイートコーン	22,400	1,050	234,700	22,400	1,050	234,700	100.0%	100.0%	100.0%
さやいんげん	5,020	775	38,900	5,040	772	38,900	100.4%	99.6%	100.0%
さやえんどう	2,800	696	19,500	2,810	694	19,500	100.4%	99.7%	100.0%
グリーンピース	685	818	5,600	685	818	5,600	100.0%	100.0%	100.0%
そらまめ	1,770	864	15,300	1,750	874	15,300	98.9%	101.2%	100.0%
えだまめ	12,800	518	66,300	13,000	510	66,300	101.6%	98.5%	100.0%
しょうが	1,750	2,550	44,700	1,760	2,540	44,700	100.6%	99.6%	100.0%
いちご	5,020	3,170	159,200	5,030	3,170	159,200	100.2%	100.0%	100.0%
メロン	6,250	2,370	147,900	6,280	2,360	147,900	100.5%	99.6%	100.0%
すいか	9,350	3,330	310,900	9,360	3,320	310,900	100.1%	99.7%	100.0%

類・品目	令和5年産公表値 基準年（面積：令和4年産、出荷量：令和元年産）		令和5年産試算値 基準年（面積・出荷量：令和元年産）		作付（収穫）面積対比 試算値/公表値	出荷量対比 試算値/公表値
	作付（収穫）面積	出荷量	作付（収穫）面積	出荷量		
	a	千本（球・鉢）	a	千本（球・鉢）		
切り花類	1,271,000	3,028,000	1,277,000	3,028,000	100.5%	100.0%
うち きく	397,900	1,187,000	402,500	1,187,000	101.2%	100.0%
カーネーション	22,900	182,600	22,800	182,600	99.6%	100.0%
ばら	26,200	183,600	26,700	183,600	101.9%	100.0%
りんどう	38,900	69,000	40,000	69,000	102.8%	100.0%
宿根かすみそう	19,600	47,200	19,900	47,200	101.5%	100.0%
スターチス	16,600	113,300	16,400	113,300	98.8%	100.0%
ガーベラ	7,420	119,900	7,620	119,900	102.7%	100.0%
トルコギキョウ	38,700	84,300	39,700	84,300	102.6%	100.0%
ゆり	60,900	101,800	62,500	101,800	102.6%	100.0%
アルストロメリア	7,970	54,500	8,000	54,500	100.4%	100.0%
切り葉	55,000	81,100	54,900	81,100	99.8%	100.0%
切り枝	357,500	205,500	361,000	205,500	101.0%	100.0%
球根類	22,900	68,100	22,600	68,100	98.7%	100.0%
鉢ものの類	140,000	175,400	140,600	175,400	100.4%	100.0%
うち シクラメン	15,100	14,300	15,300	14,300	101.3%	100.0%
洋ラン類	16,300	11,400	16,800	11,400	103.1%	100.0%
観葉植物	25,400	40,900	25,100	40,900	98.8%	100.0%
花木類	27,500	29,000	27,400	29,000	99.6%	100.0%
花壇用苗ものの類	122,300	515,400	123,700	515,400	101.1%	100.0%
うち パンジー	22,900	98,600	22,900	98,600	100.0%	100.0%